

年 報

—令和 2 年度—

2021

大磯町郷土資料館

OISO MUNICIPAL MUSEUM

はじめに

令和2年度大磯町郷土資料館年報を刊行いたします。

令和2年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応に追われた一年となりました。前年度の3月7日から始まった臨時休館は、結局、郷土資料館は6月15日まで、旧吉田茂邸は6月30日までの約4か月間に及び、年が明けた令和3年1月9日からは、再び神奈川県内に緊急事態宣言が発出されたことに伴い、3月21日まで臨時休館の対応を取ることになりました。従って、本年度は、事実上、半年間は休館していたこととなります。当初予定していた企画展、講座などの事業は全て中止となり、いわゆるコロナ禍の前には考えられないほど、博物館の活動が制限されました。

博物館という場で実物資料を観覧するという当り前の活動ができなくなってしまった中、多くの博物館ではインターネットを活用して、所蔵資料の情報などを発信し続けました。当館でも、もともと利用していたtwitterやFacebookへの投稿を増やし、さらにウェブサイトの情報を充実させました。これらの博物館の取り組みは世界的にも注目され、新型コロナウイルス感染症の問題が収束した後も、博物館の新たな情報発信の手段として定着することでしょう。

一方で、当館における資料収集件数は前年度と比較しても大差なく、地域の貴重な資料を保管するという地域博物館の機能は、変わらず求められていると言えます。今後も、感染症対策を講じながら地域博物館としての役割を果たせるよう、その方法を模索してまいりますので、引き続き、当館の事業にご理解・ご協力をお願いいたします。

大磯町郷土資料館

目 次

〔事業報告〕

大磯町郷土資料館運営	4
・組織および職員	4
・協議会	4
・予算	4
・観覧者数	5
大磯町郷土資料館施設管理	6
・維持管理	6
・施設使用	6
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理	6
・維持管理	6
・施設使用	6
大磯町郷土資料館学芸活動	7
・企画展	7
・学級・講座	7
・博物館実習	8
・研究活動	9
・博物館資料の整備	9
・刊行物	10
・視察・見学対応	10
・取材対応	10
・レファレンス対応	10
・ホームページを活用した情報発信	11
・博物館資料の収集、整備、利用	11
・文献資料収集状況	14
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）学芸活動	16
・ミニ企画展	16
・博物館資料の整備	16
・調度品等の整備	16
・刊行物	16
・視察・見学対応	17
・取材対応	17
・レファレンス対応	17
学芸員の調査、研究、普及活動	17

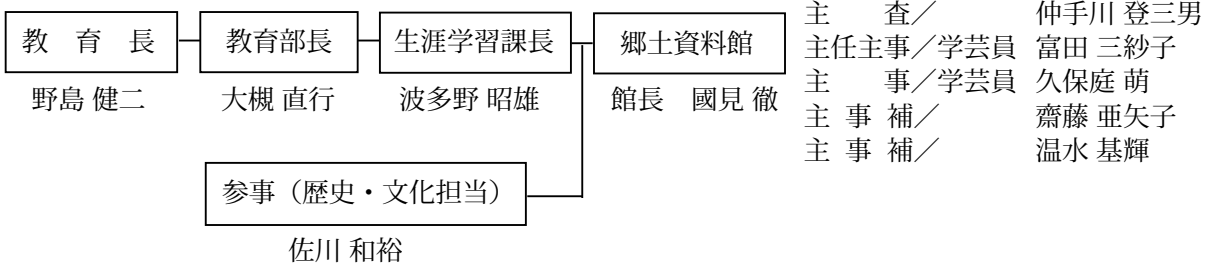
〔研究報告〕

【資料紹介】 梨本宮伊都子日記に見る大磯関係記事（1913年）	
小田部 雄次	22
大磯地区に於ける本土決戦期の遺構調査Ⅲ	
市原 誠	28
【資料紹介】 吉田茂宛竹内綱書簡（続）	
久保庭 萌	38

事業報告

大磯町郷土資料館運営

■ 組織および職員



会計年度任用職員／学芸員	鈴木 一男、飯野 友紀、中原 園子、伊藤 匠、村田 聡美、 酒井 晃 (R2/6/1-)
会計年度任用職員／司書	今井 沙穂里
会計年度任用職員／自然観察指導員	高山 優美
会計年度任用職員	川下 多恵子、佐藤 瑞香、名取 淳子 (-R2/4/30)、 西田 裕子、花輪 弘枝、若栗 尊子、鈴木 道子 (R2/8/1-)、 山本 陽子 (R2/8/1-)

■ 協議会

<委員の構成>

- ・委員 長／ 近藤 英夫（学識経験者）
- ・副委員 長／ 西川 武臣（学識経験者）
- ・委 員／ 柴田 紳一（学識経験者）、古川 元也（学識経験者）、原田 康弘（学校教育関係者）、
中島 美江（社会教育関係者）、大倉 祥子（観光関係者）、曾根田 玲子（観光関係者）、
上野 広子（社会教育関係者）

<協議会の開催>

- ・第1回／令和2年11月11日

議題 1	令和元年度事業報告について
議題 2	令和2年度事業について
議題 3	新型コロナウイルス感染症対策について
- ・第2回／令和3年3月23日

議題 1	令和2年度事業報告について
議題 2	令和3年度事業について

■ 予算

<当初予算の推移>

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
金額	512,125千円	147,274千円	84,551千円	98,941千円	92,462千円	88,987千円

<令和2年度歳入決算額（一部のみ）>

- | | | | |
|--------------|------------|--------------|---------|
| ・旧吉田茂邸観覧料 | 5,085,510円 | ・吉田茂関連製品売上代 | 56,600円 |
| ・旧吉田茂邸刊行物売上代 | 85,490円 | ・郷土資料館刊行物売上代 | 78,110円 |

<令和2年度歳出決算額>

事業	郷土資料館 運営事務事業	郷土資料館 維持管理事業	郷土資料館 学芸活動事業	教育普及・ 企画展事業	郷土資料館 施設整備事業
金額	1,575,667円	12,171,281円	4,658,338円	484,142円	3,608,000円
事業	旧吉田茂邸 運営事務事業	旧吉田茂邸 維持管理事業	旧吉田茂邸 学芸活動事業	旧吉田茂邸 利活用推進事業	計
金額	9,231,935円	7,206,253円	2,224,359円	92,400円	41,252,375円

□職員給与（6人分） 37,609,566円 ■歳出合計 78,861,941円

■ 観覧者数

<郷土資料館観覧者数の推移>

単位：人、日

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	累計 (昭和 63 年～)
入館者数	17,862	35,826	28,900	22,201	11,053	993,174
1 日平均 / 開館日数	149 / 120	122 / 294	97 / 299	82 / 271	64 / 173	110 / 9,045

※平成 28 年度は平成 28 年 11 月 2 日まで展示リニューアル工事のため休館

※令和元年度は令和元年 10 月 12 日、13 日を台風 19 号のため、令和 2 年 3 月 7 日から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度に続き令和 2 年 6 月 15 日まで、令和 3 年 1 月 9 日から 3 月 21 日まで臨時休館

<郷土資料館の月別観覧者数>

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
入館者数	0	0	536	1,056	1,039	1,347	
1 日平均	0	0	41	41	42	54	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入館者数	2,128	2,502	1,793	126	0	526	11,053
1 日平均	82	104	78	42	0	66	64

※前年度に続き令和 2 年 6 月 15 日まで、令和 3 年 1 月 9 日から 3 月 21 日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

<旧吉田茂邸（郷土資料館別館）の月別観覧者数>

単位：人

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
観覧者数	大人 (個人)	0	0	0	1,168	1,172	1,466	
	大人 (団体)	0	0	0	0	0	0	
	中学生・高校生 (個人)	0	0	0	9	36	25	
	中学生・高校生 (団体)	0	0	0	0	0	0	
	小学生以下	0	0	0	27	62	62	
	障がい者/介護者	0	0	0	47	49	69	
	減免対象者	0	0	0	66	21	41	
計	0	0	0	1,317	1,340	1,663		
1 日平均	0	0	0	51	54	67		
		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
観覧者数	大人 (個人)	1,864	2,496	1,088	68	0	459	9,781
	大人 (団体)	22	104	15	0	0	0	141
	中学生・高校生 (個人)	4	33	19	0	0	28	154
	中学生・高校生 (団体)	0	0	0	0	0	0	0
	小学生以下	37	78	29	2	0	15	312
	障がい者/介護者	83	133	66	6	0	20	473
	減免対象者	48	56	120	11	0	10	409
計	2,058	2,900	1,337	87	0	532	11,270	
1 日平均	79	121	58	29	0	67	70	

※前年度に続き令和 2 年 6 月 30 日まで、令和 3 年 1 月 9 日から 3 月 21 日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

大磯町郷土資料館施設管理

■ 維持管理

<委託業務>

- ・清掃委託／(株)湘南県央サービス
- ・警備委託／(株)全日警 横浜支社
- ・昇降機保守委託／ダイコー(株)横浜営業所
- ・敷地管理委託／(財)神奈川県公園協会
- ・空調機器給水設備保守委託／(株)郵生
- ・自家用電気工作物保守委託／荻野電気管理事務所
- ・消防用設備保守委託／(株)三栄防災
- ・自動ドア保守委託／(株)神奈川ナブコ 厚木支店

<修繕>

- ・受水槽給水ボールタップ交換／(株)郵生
- ・補修工作室照明器具修繕／釜津田電機商会
- ・給湯室水栓パッキン交換／(有)岩田土木管工
- ・トイレ扉修繕／(有)山本建設
- ・自動ドア修繕／(株)神奈川ナブコ 厚木支店
- ・研修室壁紙貼り替え修繕／(株)大創建設
- ・ハロゲン化物消火設備修繕／(株)三栄防災 平塚支店

<工事>

- ・キュービクル修繕工事／(株)フリーテム

<設計委託>

- ・空調設備改修工事／(資)アーバンクルー

■ 施設使用

<施設使用月別件数>

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修室	0	0	0	6	4	4	4	5	2	0	0	0	25

※前年度に続き令和2年6月15日まで、令和3年1月9日から3月21日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理

■ 維持管理

<委託業務>

- ・清掃委託／高橋産業(株)
- ・警備委託／(株)全日警 横浜支社
- ・昇降機保守委託／(株)日立ビルシステム 横浜支社
- ・空調設備保守点検委託／(株)郵生
- ・消防用設備保守委託／モリタ宮田工業(株)
- ・敷地管理委託／(財)神奈川県公園協会

<修繕>

- ・框硝子用レール固定工事／匠建設(株)
- ・雨戸修繕／匠建設(株)
- ・LEDダウンライト修繕／釜津田電機商会
- ・エレベーターバッテリー交換／(株)日立ビルシステム

■ 施設使用

<施設使用月別件数>

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全館	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
和室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金の間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研修室	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3

※前年度に続き令和2年6月30日まで、令和3年1月9日から3月21日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

大磯町郷土資料館学芸活動

■ 企画展

ミニ企画展「大磯の災害」

期 間／令和2年9月2日（水）～30日（水）

開場日数／25日間

会 場／郷土資料館 廻廊

出品点数／9点

料 金／無料

観覧者数／1,347人

趣 旨／地域で過去に起こった災害を普及啓発するため、「大磯の災害」ポスター風水害編と噴火編を展示する。

内 容／平成24年度に実施した企画展「大磯の災害」の内容をまとめたポスターの内、風水害編と噴火編を掲示した。また、危機管理課の協力を得て、新型コロナウイルス感染症対策をしながら避難する際の注意点について紹介した。

（担 当）富田



大磯自然発見コーナー

趣 旨／大磯町内で採集できる自然資料などを館内に展示し、自然観察の参考となる情報を提供する。自然環境に関心を高めるきっかけづくりにつなげる。

【第1回】「虫たちの春」

期 間／令和2年6月16日（火）～30日（火）

出品点数／約13点

内 容／昆虫が動き始める春、身近でもたくさん昆虫を見ることができる。昆虫はどこでどんな形態（卵、幼虫、蛹、成虫など）で過ごしているのか、3月・4月・5月と月毎に見られた昆虫の様子を紹介した。

【第2回】「磯へ行こう！」

期 間／令和2年8月4日（火）～9月29日（火）

出品点数／約9点

内 容／大磯の海岸はほとんどが砂浜だが、照ヶ崎海岸の一部に磯が残っている。磯ではその特殊な環境のため、他では見ることのできない多種多様な生き物を観察することができる。磯で観察できる生き物や観察に適した時間帯（干潮・満潮）、観察グッズについて紹介した。

【第3回】「浜辺散策を楽しもう」

期 間／令和2年10月8日（木）～12月2日（水）

出品点数／約8点

内 容／海では夏から秋にかけて漂着物が多くなる。海辺散策の視点が増えることでどこでも浜辺散策も楽しめるよう、大磯の海でみられる漂着物を近くから運ばれてきた人工物・自然物、遠くから運ばれてきた人工物・自然物に分けて展示した。

【第4回】「続：浜辺散策を楽しもう」

期 間／令和2年12月3日（木）～令和3年4月14日（水）

出品点数／約4点

内 容／海に足を運ぶことで、海洋ゴミが増えていく現状からどのような行動・選択をすべきか考えてもらうことを目的に、貝殻、流木、海藻押し葉などを使った漂流物アートを紹介した。

（担 当）高山・村田



■ 学級・講座

<古文書裏打クラブ>

期 日／令和2年9月19日（土）、10月17日（土）、11月21日（土）、12月19日（土）

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／鶴飼レイ子氏、中村ふぢ氏、吉原悦子氏

会員人数／11人

参加人数／延26人

内 容／裏打ちの技術を学びながら、当館で所蔵している古文書の裏打ちを行うワークショップ。博物館資料の整理というボランティア的な性格をもつ活動として位置づけ、平成16年度から継続している。活動内容は、昨年度に引き続き、襖に下張りされていた古文書の資料化を進めた。1名の新規入会があった。

(担 当) 富田

<古文書解読クラブ>

期 日／令和2年9月5日(土) 10月3日(土)、11月7日(土)、12月5日(土)

場 所／郷土資料館 研修室

会員人数／12人

参加人数／延60人

内 容／郷土資料館が所蔵する古文書を会員と共に解読することにより、大磯の歴史を学び、古文書資料の活用を図ることを目的として、平成24年度から毎月第一土曜日を原則として活動を始めた。町指定文化財である大磯宿小島本陣資料の休泊帳を解読し、翻訳文を刊行することを目指している。また、引き続き、会員有志で毎週金曜日の活動を行い、大正期の大磯町の助役日誌を解読している。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4、5、8、1月の活動を休止し、6、7、2、3月の活動を、会員が解読した解読文を担当者が添削する形式に変更した。

(担 当) 富田

<写真整理クラブ>

期 日／令和2年9月13日(日)、9月27日(日) 10月11日(日)、10月25日(日)、11月15日(日)、11月29日(日)、12月13日(日)、12月27日(日)

場 所／郷土資料館 研修室

会員人数／3人

参加人数／延28人

内 容／郷土資料館が所蔵する写真を会員と共に整理し、資料の活用を図ることを目的として、平成28年度から毎月第二、第四日曜日を原則として活動を始めた。活動内容としては、『広報おおいそ』担当者が撮影した写真のフィルムをスキャンし、デジタル化した。また、必要に応じてフィルムの清掃を行った。今年度は、ネガフィルムのアルバム全28冊の内、7冊目(資料番号N7)の途中まで、フィルムをデジタル化した。なお、『広報おおいそ』関係写真については、新たに本庁で発見された写真を追加で受け入れたため、アルバムの数量が前年度より増えた。また、会員が1名退会した。

(担 当) 富田

■ 博物館実習

令和2年度は3大学より3名の学生を受け入れた。実習期間は8月4日から8月8日の間及び7月17日(事前ガイダンス)、8月28日(課題等提出)の計7日間とした。

実習課程は、資料整理などの実務的な作業、展示、広報物の作成とした。展示作業では、常設展示室の「文学と大磯」コーナーにおける、嶋立庵関係資料の展示替えを行った。

<実習生>

川又 万祐(日本大学)、安西 勇人(鶴見大学)、増田 健宏(桜美林大学)

<課程>

月日	曜日	午前	午後
7月17日	金		ガイダンス／館内見学
8月4日	火	講義(博物館活動の概要)	町内施設・史蹟等見学
8月5日	水	歴史資料の整理	
8月6日	木	常設展示室展示替え(歴史資料の展示)	
8月7日	金	資料梱包	資料梱包／特殊資料の取り扱い

月日	曜日	午前	午後
8月8日	土	展示広報物の作成	
8月28日	金	課題提出	

(担 当) 富田・久保庭・國見

■ 研究活動

戦時中の大磯に関する調査

期 日／令和2年11月28日(土)、12月12日(土)、令和3年1月16日(土)・28日(木)、3月6日(土)

内 容／平成27年に終戦70年を迎え、戦争の記録が失われつつある中、大磯の戦時中の状況を把握することを目的として、平成28年度から調査を始めた。調査内容は、町内で空襲などの戦争を体験された方に対する聞き取り調査及び町内に築かれた防空壕などの実測調査、その他必要な調査である。本年度は、空襲などの体験に関する聞き取り調査において、2人の方にご協力いただいた。また、大磯駅裏や西小磯に所在する防空壕・陣地壕の実測調査を行った。調査にあたっては当館職員の手、市民協力者として、市原誠氏、藤田尚志氏にご協力いただいた。

(担 当) 富田・久保庭

■ 博物館資料の整備

<歴史資料の整理>

歴史資料については、開館以来、長期にわたって専門の担当者が不在であったこともあり、未整理資料が膨大に収蔵されている現状にある。平成30年度から、これらの資料を総括し、段階的に整理することとした。本年度は、次のとおり整理を進めた。

文献資料（古文書等）

・大磯町史編纂時の整理済み資料の再調査及び未整理資料の整理を行った。受入番号2010-0422まで完了。

受入番号	資料群名	点数	受入番号	資料群名	点数
2005-0102 他	石塚アヤ子家旧蔵資料	1,179	2006-1205	西海栄喜繁家旧蔵資料	5
2005-0601	長島栄治家旧蔵資料	40	2008-1004	森龍朗家旧蔵資料（嶋立庵関係資料）	5
2005-0801	笠間康男家旧蔵資料	3	2009-1001	原安民（昔人）関係資料	56
2005-1002	原庸道家旧蔵資料	9	2010-0422	近藤敬一郎家旧蔵資料	320

コレクション資料

- ・吉田茂関係資料を新たに33点購入及び受け入れ、所蔵点数が4,499点になった。
- ・吉田茂関係資料の内、吉田家旧蔵資料（受入番号2017-0309）の目録を刊行した。また、写真資料685点のデジタル化と、書簡資料155点の翻刻作業を進めた。
- ・吉田茂関係資料の内、谷口直枝子宛吉田茂書簡（受入番号2020-0301）89点を整理し、管理用の目録を作成した。
- ・伊藤博文関係資料を新たに30点受け入れ、所蔵点数が69点になった。
- ・城山荘関係資料を新たに38点受け入れ、所蔵点数が206点になった。
- ・嶋立庵関係資料を新たに1点受け入れ、所蔵点数が1,754点になった。
- ・松本順関係資料を整理した。総点数323点。
- ・ホームページの収蔵資料データベースにて、城山荘関係資料の目録及び画像の一部を公開した。

美術品

- ・銃砲刀剣類を新たに1点受け入れ、所蔵点数が52点になった。

寄託資料

- ・寄託番号56 二宮家資料の整理に着手した。
- ・寄託番号57 安田鞆彦宛吉田茂書簡38点を整理し、管理用の目録を作成した。

絵葉書

- ・新たに4点購入し、所蔵点数が919点になった。
- ・大磯に関するもののみ、ホームページの収蔵資料データベースに11シリーズの画像を追加した。公開した画像の件数は、計38シリーズ。

写真

- ・ホームページの収蔵資料データベースに、大磯町広報担当撮影写真の画像を14シリーズ公開した。
(担当) 富田・久保庭・飯野・中原・酒井・伊藤

■ 刊行物

<図録・冊子>

- ・『年報—令和元年度—』 A4判40頁 400部 (令和2年8月刊)
- ・企画展図録『大磯町の海辺の自然』(2刷) A4判16頁 500部 (令和2年10月刊)
- ・『Report—大磯町郷土資料館だより』41 A4判8頁 800部 (令和3年2月刊)
- ・資料館資料19『吉田茂関連資料目録(一) 吉田家旧蔵資料』 A4判84頁 500部 (令和3年3月刊)

<チラシ・パンフレット>

- ・企画展『旧高麗寺ゆかりの神像・仏像修理』チラシ A4判両面 10,000部 (令和3年3月刊)
- ・企画展『旧高麗寺ゆかりの神像・仏像修理』解説資料 A4判4頁 500部 (令和3年3月刊)

※新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館のため、会期を令和3年度に延期

■ 視察・見学対応

令和2年度は、0件であった。

■ 取材対応

<刊行物>

- ・タウンニュース 令和2年5月15日掲載「100年前の防疫に関心」(富田)
- ・タウンニュース 令和2年6月5日掲載「大磯海水浴場 今夏の開設中止」(富田)
- ・タウンニュース 令和2年8月14日掲載「戦後75年にコロナの影」(富田)
- ・タウンニュース 令和2年8月28日掲載「大学生が学芸員体験」(富田)
- ・タウンニュース 不定期連載「助役日誌から知る100年前の大磯」(富田)
- ・読売新聞 令和2年9月27日掲載「ニッポン探景 アオバト飛来地・海が著名人引きつける」
(久保庭)
- ・タウンニュース 令和2年9月11日掲載「噴火と風水害の地元史」(富田)
- ・タウンニュース 令和2年9月18日掲載「初の「非接触」国勢調査」(富田)
- ・タウンニュース 令和2年10月9日掲載「安田善次郎百回忌の年」(富田)
- ・タウンニュース 令和3年2月19日掲載「渋沢栄一の足跡大磯にも」(富田)

<ラジオ>

- ・NHK『はま☆キラ! (令和2年5月13日放送)』「大磯の海水浴場について」(久保庭)

<テレビ>

- ・ケーブルテレビ『かながわらく楽ウォーキング (令和2年7月放送)』「郷土資料館と旧吉田茂邸の案内」(久保庭)
- ・J:COM『泉秀樹の歴史を歩く (令和2年8月1日放送)』「幕末維新とパンデミック・松本順」(富田)
- ・湘南ケーブルネットワーク (令和2年8月放送)「海のまち・大磯」(富田)
- ・ケーブルネット296 (令和2年12月21日放送)「佐倉市郷土の先覚者松本良順」(富田)
- ・NHK『さわやか自然百景 (令和3年5月30日放送)』「高麗山の自然について」(村田)

<ウェブサイト>

- ・神奈川県 (令和2年10月以降公開)『観光かながわNOW』「郷土資料館と旧吉田茂邸の案内」
(富田・酒井)

■ レファレンス対応

- ・令和2年4月12日/西周について/獨協大学 (富田)
- ・令和2年1月24日~4月24日/箱根戦争における国府本郷村百姓の戦死者について/個人 (富田)
- ・令和2年5月3日~5日/浅野総一郎別邸について/個人 (富田)
- ・令和2年5月22日/ハコブネについて/個人 (久保庭)
- ・令和2年6月24日/古文書解説に係る相談/個人 (富田)

- ・令和2年7月14日～15日／澤田美喜記念館所蔵資料の解説／澤田美喜記念館（富田）
- ・令和2年8月30日～9月10日／白岩神社の縁起の解説／高来神社（富田）
- ・令和2年9月8日～10日／本陣等で提供された食事について／デザインスタジオスピン（仲手川・富田）
- ・令和2年9月4日～13日／江戸時代の俳諧、五色墨派の俳系図について／個人（富田）
- ・令和2年10月7日～11日／伊藤梅子と「大磯会」について／個人（富田）
- ・令和2年10月22日～23日／シロマダラについて／個人（村田・富田）
- ・令和2年10月8日～23日／大磯町歌について／個人（久保庭）
- ・令和2年11月4日～7日／妙大寺墓所の樋口季一郎及び相良俊輔について／個人（富田・鈴木一）
- ・令和2年12月10日／用田村伊東宗兵衛家文書について／茨城県県央農林事務所（富田）
- ・令和2年12月18日／大磯宿小島本陣の宿帳について／個人（富田）
- ・令和2年12月18日／本多静六が設計した「大磯公園」について／個人（久保庭）
- ・令和2年12月23日／湘南の発祥に関する資料の紹介について／個人（富田）
- ・令和3年2月23日～3月1日／今村清之助及び大正舎富升について／個人（富田）
- ・令和3年2月24日／松本順書幅の解説及び地福寺住職の書について／個人（富田・鈴木一）
- ・令和3年3月9日／大磯の古地図について／個人（富田）
- ・令和3年3月17日／易住寺（伊勢原市）所蔵の山縣有朋の扁額について／個人（富田）
- ・令和3年3月26日／原安民（昔人）の正岡子規に関する資料について／個人（富田）

■ ホームページを活用した情報発信

<ホームページの更新>

- ・休館情報などを公開した。
- ・収蔵資料データベースで公開する資料を追加した。
- ・「100年前の大磯～小見助役の一日～」を更新した。
- ・旧吉田茂邸の利用案内・展示・再建事業のページを改修した。

<ブログの更新>

- ・年間を通して、郷土資料館は19回、旧吉田茂邸は3回更新した。

< SNS の利用 >

- ・twitterは、年間を通して136回投稿し、517件の反応があった。フォロワー数は1,130件。
 - ・Facebookは、年間を通して136回投稿し、543件の反応があった。フォロワー数は149件。
 - ・インスタグラムは、年間を通して45回投稿し、716件の反応があった。フォロワー数は104件。
- ※フォロワー数は、令和3年4月21日確認。

■ 博物館資料の収集、整備、利用

<寄贈資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2020-0402	R2.4.28	図書『日本を決定した百年』他	2	曾田 成則
2020-0601	R2.6.4	馬場台遺跡発掘調査資料	一括	—
2020-0603	R2.6.11	吉田茂関連図書	4	曾田 成則
2020-0701	R2.7.2	伊藤博文書幅・扁額	4	川邊 溪子
2020-0703	R2.7.17	デーケー	一対	加藤 豊
2020-0704	R2.7.26	野島嘉章関係資料	3	泉脇 茂太
2020-0705	R2.7.28	軍隊手帳	1	加藤 千恵子
2020-0706	R2.7.29	吉田茂銅像写真、色紙 他	一括	山下 隆
2020-0801	R2.8.13	城山窯焼き物	一括	浅野 久子
2020-0902	R2.9.8	国道1号線切通し開通式の写真	2	吉村 英夫
2020-0902	R2.9.8	県立国府実修学校の写真	3	吉村 英夫
2020-1001	R2.10.8	鈴木芳如短冊（複製）	2	日高 忍
2020-1101	R2.11.4	吉田茂関連書簡	4	吉田 暁子
2020-1101	R2.11.4	吉田茂作文	6	吉田 暁子
2020-1101	R2.11.4	講和会議随行記念南洋ウェーク	1	吉田 暁子
2020-1104	R2.11.18	蓄音機	1	光野 淳子
2020-1104	R2.11.18	ハイチョウ（蠅帳）	1	光野 淳子

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2020-1105	R2.11.19	吉田茂関連図書（『近聞遠目』、『顔を見ればわかる』）	2	曾田 成則
2020-1106	R2.11.24	伊藤梅子差出小宮泰子宛書簡	1	山際 正道
2020-1201	R2.12.15	アンバリ 他	9	内田 もと子
2021-0101	R3.1.21	吉田茂関連図書（『小日本主義』）	1	曾田 成則
2021-0102	R3.1.27	口、モリなど漁具一括	一括	関野 多美男
2021-0201	R3.2.18	雑誌記事「幕末から昭和」（『週刊現代』）	一括	曾田 成則
2021-0301	R3.3.2	棧瓦	5	波多野 収三
2021-0303	R3.3.25	新聞記事「日本の安全保障戦略（2）」	1	曾田 成則

<採集資料>

No.	受入年月日	資料名	数量
2020-1103	R2.11.6	伊藤博文関係資料（双眼鏡及び勲章の箱）	2

<移管資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2020-0401	R2.4.3	公共下水道（汚水）実施設計（基本） 業務委託報告書・土質標本	3	下水道課
2020-0604	R2.6.18	大磯ロングビーチ招待券	9	福祉課
2020-1006	R2.10.14	大磯小学校関係資料	一括	大磯小学校

<購入資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2020-0602	R2.6.11	吉田茂直筆色紙	1	福地書店
2020-0702	R2.7.15	写真アルバム「吉田内閣と講和 記念写真帖」	1	泰成堂書店
2020-0904	R2.9.24	絵葉書	一式	鶴庵 高橋正幸
2021-0103	R3.1.28	書籍『加舎白雄全集』	1	八木書店
2021-0302	R3.3.9	城山焼染付鳳凰皿	10	古美術はりま
2021-0302	R3.3.9	鈴木芳如筆若松画賛幅	1	古美術はりま

<寄託資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2	S63.6.1	山高帽 他	一括	西小磯東区長
5	S63.9.2	四季耕作図 他	11	個人
16	H1.12.9	子ども会旗・七夕資料	一括	西小磯西子ども会
17	H1.8.8	菊池重三郎関係資料	1,510	個人
22	H4.4.1	稲荷講資料	一括	個人
23	H4.4.1	雛人形	一括	個人
28	H5.7.22	吉田茂杯 他	5	大磯中学校
30	H6.4.12	掛軸 他	一括	西小磯東区長・西小磯西区長
32	H7.9.12	獅子頭	2（1対）	裡道区長
35	H13.7.17	屏風 他	一括	南本町区長
37	H15.4.1	木造神像群	12	高来神社
39	H21.4.17	扁額 他	1	国府中学校
40	H21.12.24	伊藤博文書幅	1	個人
41	H22.2.1	大久保家資料	一括	個人
43	H23.6.29	掛軸	1	個人

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
44	H26.8.12	脇差	1	個人
45	H27.3.6	鈴木芳如関係資料	156	個人
46	H27.4.16	画幅「七福神」他	2	個人
48	H27.8.4	わきざし 他	8	個人
49	H27.8.4	わきざし	1	個人
50	H28.6.29	袖がらみ 他	2	個人
51	H28.4.5	杉戸絵 他	10	国土交通省関東地方整備局国営昭和記念公園事務所
52	H28.10.13	国府祭 鷲舞資料	一式	六所神社
53	H29.7.13	城山荘関係資料	57	個人
54	H29.10.26	招仙閣関係資料	26	東光院
55	H29.1.5	日本国憲法草案	2	個人
56	H30.9.9	生沢二宮家資料	一括	個人
57	R2.1.7	安田鞞彦宛吉田茂書簡	一括	個人

※寄託期間は No.51 以外、最長 2 年とし、2 年以降は更新を行う。現在の寄託期間は、令和 4 年 3 月 31 日まで。No.51 は明治記念大磯邸園全面開園の際に返却する予定であるため、寄託期間は令和 6 年 3 月 31 日まで。

<資料の館外貸出>

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
馬場台遺跡第 63 地点試掘調査資料	一括	発掘調査報告書作成	R2.4.1 ~ R3.3.31	(株) アーク・フィールドワークシステム
刀剣「兼定」	1	刀剣鞘修理	R2.9.3 ~ R2.9.30	小野 敬博
堂後下横穴墓群 1 号墓直刀片 他	4	資料保存処理委託	R2.9.15 ~ R3.3.12	(株) 東都文化財保存研究所
伊藤博文の書(掛軸)	1	明治記念大磯邸園第一期開園式の展示	R2.11.3	国土交通省関東地方整備局国営昭和記念公園事務所
左義長のソリ	1	特別展示	R2.10.27 ~ R3.2.12	県立歴史博物館
銅印「墳」	1	特別展示	R3.1.15 ~ R3.4.10	県立歴史博物館

<資料の特別利用>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
研究・学術	0	0	2	0	0	0	
刊行物掲載	0	0	0	2	4	5	
放映・動画配信	0	0	1	1	0	0	
ウェブ掲載	0	0	0	0	0	0	
展示	0	0	1	1	0	0	
展示資料の撮影	0	0	1	3	3	1	
その他	0	0	0	0	0	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研究・学術	0	2	1	2	1	1	9
刊行物掲載	4	1	4	2	1	4	27
放映・動画配信	4	0	1	2	1	2	12
ウェブ掲載	0	1	0	0	0	0	1
展示	0	1	0	0	0	0	3
展示資料の撮影	7	8	1	0	0	1	25
その他	1	0	0	0	1	0	2

■ 文献資料収集状況

<寄贈機関・関係団体リスト一覧>

《県内》

- [大磯町] 大磯ガイド協会、大磯町教育委員会、大磯町教育委員会生涯学習課、大磯町横溝千鶴子記念教育研究所、NPO 法人読み継ぐ書物のアクセシブル図書館
- [茅ヶ崎市] 茅ヶ崎市教育委員会、湘南カントリークラブ
- [秦野市] 野生動物救護の会
- [藤沢市] 湘南考古学同好会、藤沢市、(続) 藤沢市史編さん委員会、日本大学生物資源科学部博物館、藤沢市教育委員会、藤沢市藤澤浮世絵館、藤沢市文書館
- [平塚市] 神奈川県社会教育協会中支部、平岡学園平岡幼稚園、平塚市教育委員会、平塚市博物館
- [二宮町] まちづくり工房「しお風」、戦時下の二宮を記録する会
- [伊勢原市] 公益財団法人雨岳文庫、湘南農業協同組合
- [寒川町] 寒川町史編集委員会、寒川文書館
- [小田原市] 小田原市教育委員会、神奈川県立生命の星・地球博物館、報徳福運社
- [箱根町] 箱根町立郷土資料館
- [山北町] 山北町地方史研究会
- [横浜市] アーク・フィールドワークシステム、岩崎博物館、馬の博物館、かながわ考古学財団、神奈川県、神奈川県教育委員会、神奈川県政策局 SDG s 推進課、神奈川県町村会、神奈川県博物館協会、神奈川県文化財課、神奈川県民俗芸能保存協会、神奈川県立金沢文庫、神奈川県立公文書館、神奈川県立歴史博物館、神奈川県文学振興会、シルク博物館、JICA 横浜海外移住資料館、玉川文化財研究所、鶴見大学博物館、日本野鳥の会神奈川支部、馬事文化財団、横浜市教育委員会、横浜植物会、横浜都市発展記念館、横浜市ふるさと歴史財団、横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター、横浜市歴史博物館、横浜みなと博物館
- [川崎市] 川崎市教育委員会、川崎市市民ミュージアム、川崎市立日本民家園
- [鎌倉市] 鎌倉市教育委員会、鎌倉文化研究会、斉藤建設、大本山円覚寺、鶴岡八幡宮社務所
- [横須賀市] 観音崎自然博物館、横須賀市教育委員会、横須賀市自然・人文博物館
- [葉山町] 葉山しおさい博物館
- [厚木市] あつぎ郷土博物館、厚木市教育委員会、厚木市教育委員会文化財保護課、睦合文化財株式会社
- [相模原市] イソビク、相模原市教育委員会、相模原市立博物館
- [逗子市] 逗子市教育委員会
- [綾瀬市] 綾瀬市教育委員会
- [清川村] 丹沢自然保護協会
- [真鶴町] 真鶴町立中川一政美術館

《県外》

- [茨城県] 稲敷市歴史民俗資料館、かすみがうら市歴史博物館
- [栃木県] 小山市立博物館、日本窯業史研究所
- [埼玉県] 行田市郷土博物館、埼玉県立川の博物館、日高市教育委員会、ふじみ野市教育委員会、富士見市立難波田城資料館、三芳町教育委員会、立正大学博物館
- [千葉県] 伊能忠敬記念館、国立歴史民俗博物館、市立市川考古博物館、市立市川自然博物館、市立市川歴史博物館、袖ヶ浦市郷土博物館、千葉県立中央博物館、飛ノ台史跡公園博物館、船橋市教育委員会、船橋市郷土資料館、松戸市立博物館
- [東京都] アイセルネットワークス、板橋区教育委員会、板橋区立郷土資料館、一般財団法人住総研、桜美林大学、お札と切手の博物館、外務省外交史料館、柏書房、学習院大学、清瀬市郷土博物館、慶応義塾大学民俗学考古学研究室、宮内庁宮内公文書館、講談社、駒澤大学禅文化歴史博物館、国際文化財、国立科学博物館、品川区立品川歴史館、四門、昭和館、尚友倶楽部、大成エンジニアリング、玉川大学教育博物館、調布市郷土博物館、東京家政学院生活文化博物館、東京都江戸東京博物館、豊島区立郷土資料館、豊島区立鈴木信太郎記念館、豊島区立雑司が谷旧宣教師館、日本航空株式会社、日本博物館協会、日本花の会、ネクサス、パスコ、府中市郷土の森博物館、文化庁、平凡社、町田市立博物館、町田市立自由民権資料館、港区教育委員会、港区立郷土歴史館、武蔵文化財研究所、明治大学、靖国神社社務所

- [静岡県] 伊豆の国市教育委員会、伊豆の国市郷土資料館、静岡県立美術館、沼津市明治史料館、沼津市歴史民俗資料館、浜松市博物館、富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会、三島市教育委員会、三島市郷土資料館
- [愛知県] 安城市歴史博物館、豊橋市美術博物館、豊橋市美術博物館友の会
- [山梨県] 環境省自然環境局生物多様性センター、南アルプス市教育委員会、甲斐市教育委員会
- [群馬県] 渋川市教育委員会
- [長野県] 茅野市教育委員会、茅野市神長官守矢史料館、茅野市美術館、茅野市文化財課文化財係、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市八ヶ岳麓文芸館
- [新潟県] 奥山荘郷土研究会、十日町市教育委員会、十日町市博物館
- [岐阜県] 藤村記念館
- [三重県] 亀山市歴史博物館、鈴鹿市考古博物館
- [和歌山県] 和歌山県立自然博物館、和歌山県立文書館
- [滋賀県] 草津宿街道交流館
- [大阪府] 大阪市立自然史博物館、富田林市教育委員会
- [兵庫県] 人と防災未来センター、姫路科学館
- [京都府] スタジオ三十三
- [奈良県] 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター
- [岡山県] 岡山民俗学会
- [高知県] 高知県牧野記念財団
- [岩手県] 奥州市牛の博物館
- [青森県] 青森県立郷土館
- [北海道] 帯広百年記念館、沙流川歴史館、美幌博物館、北海道歴史文化財団
- [福岡県] ホープ、行橋市歴史資料館
- [佐賀県] 有田町歴史民俗資料館
- [宮崎県] 都城島津邸

旧吉田茂邸（郷土資料館別館）学芸活動

■ ミニ企画展

ミニパネル展「別荘地大磯と吉田茂」

期 間／令和2年10月2日（金）～令和3年3月31日（水）

開場日数／144日間

会 場／旧吉田茂邸 展示・休憩室

観覧者数／6,914人

趣 旨／「明治記念大磯邸園」の公開にあわせ、大磯に別荘を構えた明治の元勳たちと吉田茂との関係について取り上げる。

内 容／

(1) 別荘地大磯

大磯における明治～大正～昭和戦前期までの別荘の変遷について概観する。

(2) 陸奥宗光と伊藤博文

陸奥宗光と伊藤博文の人物像を概観し、吉田茂の実父・竹内綱との関係についても説明する。

(3) 自由党土佐派

大磯町内には、陸奥や伊藤など政府首脳部だけでなく、自由党土佐派に属する人々の別荘もあった。後藤象二郎や中島信行と竹内綱、あるいは吉田健三とのつながりについて概観する。また、吉田茂が耕余塾に入学した経緯に中島信行が関係していることについても言及。

(担 当) 久保庭

■ 博物館資料の整備

<収蔵資料整備>

音声テープデジタル化委託

業務内容／財団法人吉田茂国際基金から寄贈されたカセットテープ14点の保存処理及びデジタルデータ化を行った。

契約期間／令和2年9月8日～11月19日

請負者／(株)東京光音

■ 調度品等の整備

<調度品製作委託>

旧吉田茂邸調度品製作委託

業務内容／焼失前の旧吉田茂邸に設置されていた調度品のうち銀の間執務机上の小物を製作した。

契約期間／令和2年10月1日～令和3年3月12日

請負者／(株)日展東京支店

■ 刊行物

<図録・冊子>

- ・『Report—大磯町郷土資料館だより』38（再版） A 4判 8頁 1,000部（令和2年12月刊）
- ・『Report—大磯町郷土資料館だより』40（再版） A 4判 8頁 1,000部（令和2年12月刊）

<ポスター>

- ・旧吉田茂邸案内ポスター（新型コロナウイルス注意喚起） A 1判片面 1部（令和2年6月刊）

<チラシ>

- ・旧吉田茂邸案内チラシ A 4判片面 10,000部（令和2年10月刊）

■ 視察・見学対応

<視察・見学の月別件数>

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視察	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	0	1	14
見学	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3

※前年度に続き令和2年6月30日まで、令和3年1月9日から3月21日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

■ 取材対応

<刊行物>

- ・タウンニュース 令和2年6月26日掲載「大磯ゆかりの日本画家 安田靉彦との親交示す」(久保庭)
- ・病院グループ IMS 会報誌『マイホスピタル』令和2年8月31日発行「知る識る日本偉人伝」(久保庭)
- ・湘南農業協同組合広報誌『SHONAN』9月号「湘南紀行」(久保庭)
- ・読売新聞 令和2年9月27日掲載「ニッポン探景 アオバト飛来地・海が著名人引きつける」(久保庭)
- ・JAL 情報誌『SKYWARD』12月号「大山の粋、大磯の美」(久保庭)
- ・湘南地域県政総合センター『湘南エリア旅なびガイド』令和2年度中発行 特集版「吉田茂と大磯」(久保庭)

<テレビ>

- ・ケーブルテレビ『かながわらく楽ウォーキング (令和2年7月放送)』『郷土資料館と旧吉田茂邸の案内』(久保庭)
- ・BS-TBS『にっぽん！歴史鑑定 (令和3年1月25日放送)』『戦後日本を牽引したワンマン宰相・吉田茂』(久保庭)
- ・テレビ朝日『あなたの駅前物語 (令和3年3月放送予定)』『大磯駅前』(久保庭)
- ・テレビ神奈川『カナフルTV (令和3年3月21日放送)』『地元の魅力再発見～大磯町・二宮町～』(久保庭)

<ウェブサイト>

- ・(公財) 日本交通公社 (令和2年6月中旬公開)『美しき日本全国観光』『旧吉田茂邸』(久保庭)
- ・神奈川県 (令和2年10月以降公開)『観光かながわNOW』『郷土資料館と旧吉田茂邸の案内』(富田・酒井)

■ レファレンス対応

- ・令和2年5月17日／吉田健三について／個人 (久保庭)
- ・令和2年7月30日／スリランカのジャヤワルダナと吉田茂との交流について／仙台大学 (久保庭)
- ・令和2年10月13日／吉田健三について／個人 (久保庭)
- ・令和2年10月27日～11月10日／澤田廉三宛吉田茂書簡の翻刻／澤田美喜記念館 (久保庭)

学芸員の調査、研究、普及活動

<通年の活動>

- ・神奈川県博物館協会理事／年間 (國見)
- ・第68回全国博物館大会実行委員会委員／年間 (國見)
- ・駒澤大学博物館学講座／年間／駒澤大学 (國見)
- ・アジア太平洋戦争期の相武地域史研究会／年間／東海大学 (富田・久保庭)
- ・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会長事務局事務局員／年間 (久保庭)

<庁内事業への協力>

- ・新採用職員研修会講義／令和2年4月9日／大磯町保健センター (國見)
- ・港湾管理事務所展示スペースの展示／令和2年7月 (富田・村田)
- ・嶋立庵展示ケースの展示／令和3年3月6日 (富田)

＜学校教育との連携＞

郷土資料館の見学・学習指導

講義名	月日	場所	担当
こいそ幼稚園遠足	9月29日	郷土資料館	—
二宮町立二宮小学校4年生遠足	10月13日	郷土資料館	—
国府小学校1・2年生遠足	10月16日	郷土資料館	—
大磯小学校1年生遠足	10月22日	郷土資料館	—
大磯小学校3年生秋の自然散策	11月6日	郷土資料館・旧吉田茂邸	富田・村田・高山
花・もんもん保育園遠足	11月19日	郷土資料館	—
県立大磯高等学校1年生校外学習「大磯探訪」	12月8日	郷土資料館・旧吉田茂邸	—
二宮めぐみ幼稚園遠足	12月10日	郷土資料館	—
国府中学校1年生総合的な学習「大磯調べ」	12月10日	郷土資料館・旧吉田茂邸	富田・村田・中原

学校等への講師派遣

講義名	月日	場所	担当
大磯小学校3年総合学習「たくさん知りたい大磯町」	6月30日	大磯小学校	富田・村田

＜各種団体との連携・協力＞

各種団体への講師派遣

講義名	月日	場所	担当
NPO法人大磯ガイド協会「旧吉田茂邸館内研修」	7月11日	旧吉田茂邸	久保庭
令和2年度藤沢宿歴史講座「藤沢宿と助郷」	10月6日	藤沢市ふじさわ宿交流館	富田
全史料協関東部会第306回定例研究会「MLAの所管・設置形態を考える」	12月10日	藤沢商工会議所	久保庭

＜学会・研究会との連携＞

研修会・会議出席等

名称	月日	場所	担当
アジア太平洋戦争期の相武地域史研究会	9月16日	オンライン会議	富田・久保庭
令和2年度神奈川県博物館協会第2回役員会・第68回全国博物館大会第3回実行委員会	11月10日	県立歴史博物館	國見
第68回全国博物館大会	11月25・26日	横浜市開港記念会館	國見
神奈川県博物館協会による川崎市市民ミュージアム博物館資料レスキュー活動	12月22・24日	川崎市市民ミュージアム	富田・久保庭・酒井

<執筆>

國見 徹

2020. 10. 「調査経緯」『馬場台遺跡第 63 地点発掘調査報告書』

(株) アーク・フィールドワークシステム

2020. 12. 「建材の拡散」『生産の考古学Ⅲ』駒澤大学考古学研究室編

2020. 12. 「汽車土瓶初現期の一様相」『芙蓉峰の考古学Ⅱ』池上悟先生古稀記念会編 六一書房

2021. 3. 「大磯町の横穴墓群のもとにて」『考古遍歴』池上悟先生思い出集

富田 三紗子

2021. 3. 大磯町文化財調査報告書第 51 集『高来神社蔵木造神像群保存修理概要』大磯町教育委員会

久保庭 萌

2020. 8. 「【資料紹介】吉田茂宛竹内綱書簡」『年報—令和元年度—』大磯町郷土資料館

2021. 3. 資料館資料 19『吉田茂関連資料目録（一）吉田家旧蔵資料』大磯町郷土資料館

温水 基輝

2021. 2. 「化粧団子について」『Report—大磯町郷土資料館だより』41 大磯町郷土資料館

鈴木 一男

2020. 12. 「幻の梅沢貝塚と釜野貝塚」『芙蓉峰の考古学Ⅱ』池上悟先生古稀記念会編 六一書房

2021. 2. 「謎多き高麗温泉（1）」『Report—大磯町郷土資料館だより』41 大磯町郷土資料館

伊藤 匠

2020. 8. 「菊池重三郎と馬籠」『年報—令和元年度—』大磯町郷土資料館

2021. 2. 「二宮町の米穀商石塚商店について」『Report—大磯町郷土資料館だより』41

大磯町郷土資料館

村田 聡美

2021. 2. 「『大磯自然発見コーナー』の取り組みについて」『Report—大磯町郷土資料館だより』

41 大磯町郷土資料館

研 究 報 告

【資料紹介】

梨本宮伊都子日記に見る大磯関係記事 (1913年)

小田部 雄次
(静岡福祉大学名誉教授)

1913年(大正2)、梨本宮家は神奈川県大磯町に別荘を持った。西小磯西柳原の畑・山林・住地など2,393坪あったという。梨本宮妃の伊都子の実家の鍋島家が、すでに1896年(明治29)に西小磯稲荷松に別荘を持っており、伊都子は子供のころから大磯になじんでいた。伊都子が15歳であった1897年2月14日から3月28日まで、大磯の鍋島別荘に滞在しており、そのときの日記『大磯日記』も残されている。そうした縁もあり、結婚後、梨本宮妃となった伊都子は、大磯に宮家の別荘を建てたのであった。以後、毎年のように大磯を訪れた。ある年は冬であり、ある年は夏であり、スペイン風邪が流行した1918年前後の時期も一家で風邪の療養などで何度も滞在している(拙著『百年前のパンデミックと皇室 梨本宮伊都子妃の見たスペイン風邪』敬文舎 2020年)。

宮家の別荘が出来た1913年の伊都子の日記には、別荘所有にあたり鍋島家や地元の人々の協力があったことが記されている。また、水難事故救済に協力したり、地曳網を見たり、海岸で月をみたり、千畳敷を登山したり、地元にとけこんだ生活をしてきたこともわかる。隣家が建築家のジョサイア・コンドルの別荘であり、コンドル夫人や孫たちが遊びに来たことや、伊藤博文の未亡人である梅子もしばしば訪ねてきたことが書き残されていた。東京へ帰るときなどのお土産に、名物の虎子まんじゅうなどを買っていったことなど、大磯らしさが伝わる記事も多い。長い滞在の時もあれば、日帰りの時もあった。以下、1913年の大磯にかかわる記事を紹介する。なお、*や【 】の注記や濁点などは小田部が付した。

一九一三年(大正二)

一月六日 月 晴 午前八時三十七分新橋発にて
兩人(マス、飛田御供)にて大磯へ行。鍋島家訪問、ゆるりと昼餐をともし、午後海岸に出、今朝の寒さはどこへかと思はるるほどあたたかく長閑なり。よきよき保養をなし、午後四時一分大磯発にて帰京す。午後六時十分、新橋に着す。

二十九日 水 晴 中々寒し。大磯にて地所買入の事に付、折合其他にて白井【兵作】家従大磯へ行、それより名古屋*へ伺ひのため出張す。

名古屋*

当時、梨本宮守正は第六連隊長で名古屋に滞在。

二月一日 土 晴風 白井家従、大磯及名古屋より帰京す。

二日 日 伊都子第三十二回誕生日なれども大喪中*に付、御遠慮申上、何事も祝事なし。午前八時三十八分新橋発にて、伊都子大磯へ行。同十時四十七分、大磯に着。鍋島家に至りゆるりと昼餐をなし、午後より皆々にて例の地面を見に行。中々よき所にて気に入たり。かへれば御茶にてもはや三時半故、支度もそこそこにて四時一分、大磯発にて帰京す。

一 やき海苔 十罐 鍋島家へ。一 同五 慈貞院*様へ。一金 三千疋* 御次一同へ。かへる時御みやに、虎子まんぢう*一箱、はんぺん一籠、子供らへ小タンス及筆入一箇づつ、虎子まんぢう一、小箱一づつ。慈貞院様より、せんべい二かん。

大喪中*

明治天皇の崩御にともなう喪中。

慈貞院*

第十代鍋島直正の長女、^{たけこ みつひめ}健子。貢姫。第十一代鍋島直大の姉、伊都子の伯母。上野前橋の松平直侯^{なおよし}に嫁ぐも、直侯の早世により佐賀の武雄で転地療養し、佐賀城で直正の継室筆姫らと過して後、上京して鍋島家で暮らした。1918年5月に亡くなった。

疋*

織物の長さの単位で、反物二反分。一疋で大人用の着物と羽織を対にして仕立てられる。また、銭の単位でもあり、一疋は25文で、千文を1円と換算すると三千疋は750円。

虎子まんぢう*

大磯町の新杵などが製造販売する銘菓。現在、新杵が販売している菓子は、こしあん入りの饅頭で、虎の焼き印がある。

三日 月 晴 けふは白井、坪井【祥】も大磯へ行、色々約束すまし、大方のところ取きめ、夜かへる。

二十日 木 風晴 午前八時三十分新橋発にて、いつ子は桜井【^{りゅう}柳子・御用取扱】をつれ沼津に赴く。宮様は午前七時半、名古屋発にて沼津へならせられ、ここにて御一所になり、二時過、皇太后陛下【昭憲皇太后】の御機嫌を伺ひ、御対面遊ばしいいただき、様々の御話あり。【中略】三時ごろ一寸宮様のみお隣の皇太子殿下【のちの昭和天皇】の所へならせられ御機嫌御伺遊ばし、御前お庭其他拝見し、ゆるりとして三時三十分沼津発にて帰途につく。同六時二十分、大磯へ着、ここにて桜井及家従は東京へかへり、午前中よりさきに着したる白井家従の御供にてここにて下車し、鍋島家別邸へ入る。夕食、入浴等してゆるりとし、二階にて一泊す。

一 白縮緬、一匹。一 松魚、一折。

右は此度の大磯に買入たる別邸の色々御世話になりたる当【答】礼として、御両親様へ。

一 百円づつ 高木家従及はつたけ屋*主人へ。
右は別邸買入に付、色々ほんそうしたるに付、挨拶として。

一 玩具 三品。一 おさつあげ、お菓子三罐。一次*一同へ金十五円。一金五円、料理人其他へ。
右、鍋島家へ此度一泊に付。

はつたけ屋*

初竹屋。大磯駅の北側に招仙閣という伊藤博文がひいきにしていた旅館があり、大正時代にその旅館をたたんだ主人がはじめた店。のちに梨本宮別邸に食料品などを届けていた記事が残る。昭和に呉服店、戦後は文具店を営んだ。

次*

宮家の職員のこと。

二十一日 金 曇 午前七時二十分起床、同九時より兩人一ト足先に出かけ、此度買入たる別邸へ行。中々よきところなり。家の内、其他見まはりゐたるに、御両親様も御車にて御出に相成、御一所に庭を見てゐたるに、松露出たるなどおもしろし。それよりともども海岸に出、そろそろ散歩して御別邸へかへる。御昼を食し、御母様は十二時十六分の汽車にて御上京、われわれはゆるりと支度して、三時十六分大磯発にて帰京す。午後五時五分、無事新橋へ着、其後事なし。

大磯にてかまぼこ一籠、とらまんぢう一、いただく。とらせんべい二、ほうほけきやう*三、慈貞院様より。

ほうほけきやう*

当時、新杵で売られていた大磯名物の菓子「ホウホケキョー」。

四月五日 土 晴 <上欄>今日は吉日とて大磯の地ならしをはじむ。

七月十三日 日 晴 午前中、蔵より色々出し、大磯へさき廻しに出す。

十九日 金【土*】 晴 午前八時十一分渋谷駅発にて、いつ子大磯へ行。品川にてのりかへ、十時四十五分大磯着。人力車にて十六分にて別邸に着。新築も出来上り、大によくなる。それぞれ棚、ながしなど申付、ゆるりと海岸にも出、午後四時一分大磯発にて帰京。六時四十一分、渋谷に着せり。

*七月十八日に日記を書かなかつたため、七月十九日から八月二日まで曜日が一つずれた。

八月二日 金【土】 雨後晴 午後一時二十五分新橋発にて、一同大磯別邸へ出発し、同三時五十分大磯着。無事入家、万事ととのはず。夜に入、夕食後、散歩に海岸に出たり。

三日 日 晴 少しく涼し、いろいろするのに都合よし。宮様は陛下【大正天皇】より十時半御召につき、午前六時五十八分大磯発にて御帰京、直に参内のはづ。午前中それぞれ備付も出来、十一時ごろより一寸海岸にいで、川をわたり、おもしろく、十一時四十分ごろかへる。中々あつし。午後二時四十分頃、宮様還御遊ばさる（東京を十二時十分発、同二時二十四分大磯着）。入浴後、夕食もすまし、皆々にて海岸散歩し、くらくなりてかへる。

四日 月 晴 午前五時三十五分起床。千代浦*とタマとは日の出を見に行、おらず。ややありてかへり来る。食事前、海岸散歩し、七時食事終り後又地引網をみると皆々出たれども、近ごろはここにてあみをひろげず、取れたる分を直に舟にのせ、市場へ持ち行故、ここあたりにては引だけにてつまらぬ事なり。それより川のほとり迄あるき、十時過かへる。午後は家にてくらす。昼ごろ、伊藤公爵後室梅子殿より使にて、御機嫌伺として鮎六十尾、御菓一折献上す。夕食後は海岸散歩。

千代浦*

梨本宮家の老女（侍女頭）。本名ではなく代々、老女が名のつた。

五日 火 晴 午前五時四十分起床、一寸砂山迄行。朝食の後、一寸新聞などみて、八時四十分ごろより皆々にて散歩に出、表通りより身代り地蔵様の前より畑をぬけ、松林より川のほとりに出、海岸へ出んとせしに、この川にて先のころより四人の子供泳ぎゐたるが見るまに一人もぐりたるまま浮ばぬ故、いかにしたるならんと思ひゐたるに、幸にも後の方より百姓二人くわをかたげて来りたる故、其百姓に早くあの水中に子供が入つたなり出てこぬ故、たすけてと云ひたる故、百姓は大いそぎにて水中に入りさがしたれば、幸に手にさはり、肩にかけて出て来たる。子供はぐたぐたになりゐたり。早々さかかにし、水をはかせ、本田も手つだひてせななどさすりゐたれば、呼吸出、目を開きたり。其間に一方一所に入つて泳ぎゐたる子供らは、そこらに人を呼びに行たる故、獵師や家の人など出で来り。いろいろ手あてしたれば、幸にたすかり、大丈夫ならんと思ひし故、吾等は家路の方へそろそろとあるきかへりたり。実にきわわき事なり。午後てりはつよけれども風あり、涼しくくらす。温度は八十六度はあるらし。夕食後、海岸散歩。

六日 水 晴 午前六時過より海岸散歩。七時朝餐、又八時過より海岸に出かけたれどもあつく、九時過かへる。けふはめづらしくあつし。午後出ず。

三時過、一寸湯をかかり、四時半出門、兩人、マス御供。帰京の途につく。五時七分大磯発、七時十七分新橋着。明日のしたくして十時過いねる。東京は中々むしあつし。

七日 木 晴 十二時十分新宿発にて大磯にむけ出発す（スマ御供）、午後二時二十四分大磯に着。夕食後、海岸散歩。

八日 金 晴 朝六時より海岸散歩、すずし。別にことなく日中は家にてくらしたり。午後夕食後、海岸散歩に出る。月そろそろ出（五日位）、中々よろし。漁火も遠くちかく見え、得もいわれぬけしきなり。午前九時過、村地長孝*御機嫌伺に来る。直にかへる。

村地長孝*

梨本宮家の主治医。

九日 土 晴 午前六時ごろより海岸に散歩に出、七時かへる。けふは少しくむしあつし。同じく日中は家にてくらす。夕食後は海岸に出、くらくなる迄涼む。

十日 日 晴 午前、同じく海岸散歩。同十時ごろ小林タメ（方子の乳母）久々にて来る。御上に平塚桃三箱、ほほづき、次においも沢山持ち来る。ゆるりと遊び、夕方五時過、食事も終りてかへる。一、二千疋献上ものの御かへし。外に一、ゆかた地一反、糸り、小袋にリボン入れて、をやる。又、方子より何か小供によき品五品ほどと絵をかいてやる。午後、夕食後もいつもの如く散歩し、後、九時御出門、宮様は名古屋へ向け御立遊ばさる。同九時三十分、大磯発にて国府津にて急行に御乗かへ遊ばすはづ。二階より汽車の御通過を見あげ後、寝る。午後、白井来り。本田は一時過帰京す。名古屋へは香田御供す。

十一日 月 晴 朝六時過より海岸散歩、綱引を見て、七時二十分かへる。午前中しごとなどしてくらし、わりにあつくくらす。夕食後、又々海岸散歩し、月も出、漁火も見え、中々よし。

十二日 火 晴 けふは朝くもりたれども、又々てり出したり。朝六時より海岸散歩、又々あみ引を見てかへる。午前十時過、隣のコンデル氏*方より使にて、東京より参りし故とて野菜もの献上す。まもなく夫人*、孫のウラ*さん及ジョードンあやめ*同道にて来る。色々話をなし、ウラさん中々の大よろこびにて、家中かけづりあるき、にぎやかなり。十一時五十分ころやうやうかへる。午後、中々あつ

し、夕食後、又々海岸に出たれども、少しも風なくむしむしす。あやめさんも出かけ、ともにあるきながら話。月きえたるころ家に入る。

コンデル氏*

ジョサイア・コンデル。ジョサイア・コンドル。イギリス出身の建築家。明治10年（1877）に日本の工部大学の教授として来日し、鹿鳴館、ニコライ堂、政・財界の邸宅などを設計。

夫人*

前波くめ。

ウラ*

コンドルの娘ヘレンの長女ウルスラ。ウラはコンドルがつけた愛称で、「浦」を意味。

あやめ*

コンドルの孫の養育係か？

十三日 水 晴 朝いつものごとく海岸散歩、けふは中々あつし。夕方より雲出ゴロゴロと雷さへなりいだし、幸に六時ごろ夕立来る。これにていく日間かの早も少しはしめりたるやうなり。しかし直にやみ、七時ごろより一寸海岸に出たり。後月よろし。

十四日 木 晴 けふはくもりて涼し。朝あみの上るのを見てかへる。朝、鍋島家より手紙にて、今十四日午前八時三十八分新橋発にて、侯爵、同夫人、尚子*、大磯へ御出かけに付、御昼の食事を御願ひ申上度との事故、時刻色々支度して御待申、ほどなく十一時過ならせらる。ゆるゆると遊ばし御膳もさし上、午後、蓄音器などしてらくにくらし、四時過御かへり相成、一寸御別邸に御立寄に相成、又夕食後、七時ごろ海岸づたひに鍋島家別邸迄行。ともに海岸へ出、月をみながら、しぎ立沢の辺にて御わかれ申。皆々様は直にステーションの方へならせられ、八時七分発にて御帰京遊ばし、いつ子等は又海岸づたひに風も涼しく、八時ごろ家にかへる。又後、芝はらにござを引、すずみて十時ごろねる。

一 不二、敷島の御菓子及罐づめ五。一 伊つ子へ七宝花瓶、帶上、卵きり。一 手遊三品づつ子供らへ。一 次へ金三千疋。

右御土産として被進る。御かへりの折り、虎まんぢう二さし上る。

侯爵、同夫人、尚子*

伊都子の父の鍋島直大、母の栄子、妹の尚子。

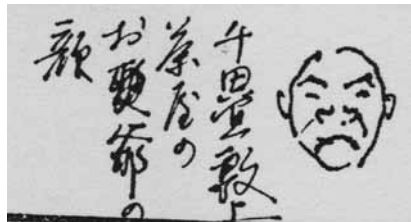
十五日 金 晴 朝同じく海岸散歩、中々日中あつし。夕方海岸散歩、月よくこちよろし。

十六日 土 晴 朝同じく海岸散歩、砂にて山などこしらへ遊ぶ。浪高し。日中ことにあつし。夕方海岸に出たるに浪高く、しぶきかかり、うつかりすとかぶりそうなり。しかしのどにはよきそうなり。衣服其他じめじめになる。月も出、中々愉快なりき。

十七日 日 晴 午前四時起床、五時三十分出門、規子だけ人力車、あとは皆徒歩にて千畳敷に登山す。三宅山附近にて規子もおり、ともに登山。道も大ききによろしく、道々風景よく時々雲るため涼しく、頂上にたつしたる時、六時二十八分なりき。西によりたる東屋にて皆々やすみ、各方面のながめよろしく、写真などもうつし、持参のサンドウキツチ、桃等食し、猶又、名物五郎の力餅ちもとりて食せしに、わりおいしく、おみやにもととのへ、二時間も遊びて九時過帰邸す。かへりは中々あつく、汗だらだらなりき。午後、コンデル氏方より使にて、お寿し二はち来る。早速一同にてひらきたり。夕方は又、いつもの如く、海岸に出、すずみてかへる。

〈上欄〉 千畳敷上茶屋のお爺の顔【図参照】。

図



十八日 月 雨時々晴 天皇皇后両陛下には本日日光御用邸へ御避暑のため行幸啓あらせらるるなり。いつ子も御奉送申上るはづながら、旅行中に付、御ことわり申上る。

〈上欄〉 午後日光御用邸にあて皇后陛下御機嫌伺の電報を発す。

十九日 火 晴 昨夜より引きつづき雨にて一同大悦び。午前九時過、晴たる故、十時ごろより海岸に出かけ河のところにてあそび、釣舟など見てとうとう十二時迄遊び、かへる。夕方はいつもやうに海岸に出、となりのあやめさん、ウラさん、バレ*さん等と遊び、七時半ごろ家に入る。後月よく、芝わらにて月見して九時過寝る。

バレ*

コンドルの娘ヘレンの次女バーバラ。バレはコンドルがつけた愛称バラ。バラは「薔薇」を意味する。

二十日 水 晴 朝いつものごとく海岸にて遊びたり。九時半過、伊藤梅子殿来訪、久々に逢ふ。しばらくはなし（此ほどの御礼に来られたるなり）。十時過かへる。十一時四十分ごろ、宇野定御機嫌伺として来る。皆々大よろこび、夕方は皆々にて海岸に行、足のみ入り、相かわらず、あやめ、ウラ、バレ一等と遊びかへる。後、九時過、あまり月よろし故、砂山迄出たり。

〈上欄〉 一 コンデル氏方へ、此ほどの当【答】礼として罐づめ五、とりの子（懐中しるこ）一箱を送る。

二十一日 木 晴 朝涼しく、ゆかたにては少しくすずし過る位なり。六時過より海岸あるき、けふは漁船上り、めづらしくたこなどとれ、小さきたこ、子供らがつかまへ、方子のバケツに入れてくれたり。家に持ちかへる。又、曇にて涼しき故、九時過より海岸に行、川の中にてやや遊び、砂浴などもして十一時かへる。海軍の演習なるにやドンドンと遠く砲声聞ゆ。午後はねん土にて色々こしらへ遊ぶ。夕方、雨降となり海岸にも一寸出たれども、直にかへる。サダ、カツ、タマは町の方へ見物かたがた出かけ、明日より開かるる大磯座の稽古芝居をも見物してかへる。けふは朝より井戸のポンプ取付に東京より来り、やう午後九時半終りかへる。

二十二日 金 雨 昨夜よりの雨やはりやまず。午前九時半、宇野定御いとま申、右に付、献上品、御挨拶として金二千疋、おまん一箱を遣す。けふは井戸がへなれども、正午迄にすむ。よき水出る。終日降たれども、夕刻晴、一寸海岸へ出、中々さむし。地引あみにて十匹ほどかかり、それを御姫様へとて漁師もち来りたり。其人は八千代といふ人の息子にて、御出入の薪やの人なりき。

〈上欄〉 名古屋へ手紙を出す。

二十三日 土 晴 清く晴わたり、ここちよし。朝海岸散歩、少しく寒し。午前八時ごろ俄に音のぶこゑする故、出みれば思ひがけぬ朝香宮様富士の演習地より行軍にて御かへりの途中、一ト足、兵より先にならせられ、御立寄になりたるなり。まづまづ御休み遊ばせと申、御茶、シトロン、桃などさし上、凡一時あまり御休みになり、兵も通過したる故、又々御馬にて出立たせられたり。御附武官御供、今晚は藤沢泊にて、明日御帰京のよし。九時過、又々小林タメ娘貞、及しづ（あかんぼ）をつれ来る。いつにかわらぬ質樸なる人なり。家に出来たりとて、ぶどう、とうもろこし等持ち来る。同十一時半ごろ、桜井御用取扱（除服出仕仰出されたるに付）御礼として来る。果物一、子供らへ人形等献上。又、竹原【恭太郎】家扶御用にて来り。午後いつ子に色々たづぬる事などして、夕刻迄。午後二時ごろ、一同にて海岸に行、遊びてかへる。午後八時九分大磯発にて桜井は帰京。竹原は九時二十七分大磯発にて名古屋へ向け出発せり。タメは一泊す。

〈上欄〉 あやめさんに此ほど子供らにせどものくれたるに付、帽子、針さしをやる。桜井に御まんぢゅうを一箱やる。

二十四日 日 晴 朝よき晴、同じく海岸散歩。二ノ宮附近迄行、あみ上るのを見てかへる。日中も涼しくくらす。午前九時過、飛田家従、東京より来着。午後、井戸屋など来り、少しくなほし、それぞれまとめ、午後三時十六分大磯発にて、白井家従帰京す。同五時半過、小林タメ、子供つれ家にかへる。右、タメにおまんぢゆう一箱、及、方子より着古しのメリンスの着物一、おもちや二品を遣す。規子よりサダへ人形をやる。夜、切通し向ふの身代り地蔵の縁日に付、一寸夜店を見に行。わりににぎやかなりき。

二十五日 月 晴 風あらし。午前六時過、いつものごとく海岸散歩。午前九時ごろジョードンあやめさん、今日より帰京に付、御いとまごひに来る。夕食後、一同にて大磯に行、第一に嶋立沢に立寄、古跡をたづね、少く早き故、町に出、こよろぎ焼*など買ひ、菊屋の前より引かへし、八時三十分帰邸す。中々暗く小磯町はきみわるし。

こよろぎ焼*

「こよろぎ（小余綾・古余綾・小余呂伎・小洵綾）」は大磯町から国府津にいたるあたりの地名。「こよろぎ焼」は大磯の「小洵綾窯」で焼いた器。

二十六日 火 時雨少しく嵐 夜来の雨ははれたれども、何となくあれ模様なり。午前六時過、いつものごとく朝の散歩に海岸に出たれば浪高くおそろしきほどなり。漁舟出、地曳網も丁度よければ、しばらく見てありしが、あまり魚も取れず、それに舟を引上るのに、中々浪のため引もどされ困難のやうなりき。其内雨降出したる故、いそぎ家にかへる。ますます浪あらく、午後音のみすさまじき故、砂山迄行、見しに二丈【約6メートル】ほどもあらんかと思ふ大浪、あとからあとからよせてはかへす音、まるで百雷の一時に落るやうなりき。いつまでもあかずながめみたり。時々雨降、少しくあれぎみなりき。

二十七日 水 嵐 夜中雨の後、追々あれ出し、午前一時ごろより暴風雨となり、北より吹つくる音さながら、小石を雨戸に打つくるやうにてもなすぐく、海の方にては、ますます浪あれくるひドドゴードドゴードと其すさまじき限りもやらず。そここと見まわる。やがてスマ一寸用たしに起、部屋の方に行しに、北より吹付し雨は中にしみ、かべより天井にもれ、女中部屋の押入より天井は雨もれにて畳もボトボトになるほど大きわざにて、盥バケツなど受け、あちこち雨もりにて、あるとあらゆる受けものを出しても、まだ追附かぬ有様、さわぎの中に夜はほのぼのとあけそめたれども、いかんともせん方なく、六時過迄ふしどの内にて音を聞か

り。七時ごろよりますます風つよく、二階より海上を一寸見れば水平線は高く見え、遠く何重となく重なりたる大山の如き浪のうねり来り。岸には白き泡はたへまなく上り、たしかに二丈はあるならんと思はるる大浪あとよりあとよりやすみ間なくうちよせ来り。今や砂山をこえておしよせはせぬやとおそろしきやうなり。雨もますますつよく、いかになり行ならんと思れたり。十一時ごろ、飛田家従、砂山迄行しに、丁度山の下迄浪来りみて、立てば雨うちよせ体はいたむ位なりとの事なり。

午後少しく雨も小やみになり、風も少しくなきたる故、一寸砂山迄出て見れば、実に浪は猛りくるひ、砂山の下迄白きあわをたてて打よせ、いつも散歩の折、おもしろく遊びし砂原は皆大なる岩あらはれ、其すさまじさ、いわん方なし。又、夕方も一寸見る。午後五時ごろやうやうほんとの晴となり、西の方より夕日まばゆくさし出、一面青き空となり真に上々晴なれども、浪はまだまだおさまらず、音はゴーゴーときこゆ。夕食後、又々砂山に出たるに、下は一面大岩と化し、いつもの（小さき方）川など丈余の岩石あらはれ、谷合より流れ出る水ほとばしり、さながら保津川の奥深くたづねるやう。前は一面の岩石に浪のあたる様、一夜の内にかくもながめのかわるほど変化せしとは、夢のやうなり。東京に一寸雨もりの事など申やりしに（アスカフマイル*）とのことなりき。

アスカフマイル*

「明日、家扶参る」の意味の電報文。

二十八日 木 晴 めづらしく晴にて少しく暑し。午前五時過ごろ竹原【糸】家扶来磯、直に大工ともどもわるき場所見まわり、それぞれ申付る。午前中、朝も海岸にてめづらしき岩を飛びあるき、石をひろひなどす。色々かたづけ、後夕食後、またまた川向ふ迄、石をひろひに行、それぞれにかへる。コンデル氏方へ此ほど当【答】礼に大磯まんぢう百を遣る。

<上欄> 竹原、午後かへる。

二十九日 金 晴 またまたはれ。午前五時過起き、お名残り、海岸へ行。思ふさま石をひろひ、七時かへる。それより支度して、十一時十七分大磯発にて帰京す。午後一時二十八分新橋着す。汽車中にてお弁当。

九月二十四日 水 晴 秋季皇霊祭に付、午前宮中へ御参内（賢所）。十一時還御、御めしかへの後、十二時五十四分渋谷発にて、両人大磯別邸へ赴く。三時三十四分大磯着。

二十五日 木 晴 長閑なる秋日より。午前六時起床、早そく海岸散歩に出たるに、此月はじめの岩のありさまはほとんどあとなく又々もとの砂原となり残念なりき。一度、食事にかへり又さらに十時ごろより皆々にて出かけ、鍋島別邸の辺迄行。十一時半かへる。午後又西の方へ一寸散歩に行、三時過かへる。東京より手紙にて、規子此ほどより少々風気なりしが、昨日迄さしたる事もなかりしが昨夕三十八度二分の熱出たるよし申来る故、用心するやう又日曜はとともむずかしき故、やめだろと申やる。

二十六日 金 曇り 中々寒く、セルに羽織にててもよろしき位なりき。午前六時四十分より散歩に出かけ、七時半かへる。又、食事後十時ごろより皆々様にて出かけ、川のほとり迄行。しばらく遊び、身代地蔵の方よりかへる。いつ子も少々風気にてここちあしく、午後雨、夜はますますつよく、少しくあれもやうなりき。東京より電報にて「ノリミヤオヤメマサミヤイカガ*」との事故、こちらよりの手紙もいまだつかぬやうす故、又まちがうといけぬ故、雨降にてきのどくながら飛田を一寸郵便局迄やり、電話にてよく申、方子と規子とよく相談した上、よければ方子だけ参りてもよろしと申たるに、兩人にてよくよく相談ととのひ、いよいよ予定通り方子、日曜日大磯へ来るとの事なりき。

ノリミヤオヤメマサミヤイカガ*

「規宮お止め、方宮いかが」の意味の電報文。

二十七日 土曜日 雨後晴 昨夜来の雨中々やまず、つくねんとして半日くらす。正午頃、少々やみ間に一寸傘をさし、砂山迄浪を見に行。あまり高からず。又々降、午後二時ごろより晴かけ、あとは上々晴となる。方子は午前十一時、学校のひけより直に新橋に赴き、十二時十分発にて午後二時二十四分大磯へ着、無事二時四十分別邸に着す。幸にこの時分より天気になり、大よろこびなりき。夕方、湯も終り、四時ごろ皆にて散歩に出かけ、海岸にて石ひろひして、五時かへり、久々西洋料理にてにぎにぎしく、食後は奥表よりてにぎにぎしく色々の遊びをなし、大わらいして八時やめ、九時寝る。

二十八日 日曜日 晴 上々晴。午前六時三十分より出かけ海岸散歩、又々石ひろひ、昨今は石多く出たり。七時半かへる。食事後又九時前より、方子と石取に出かけ、十時過かへる。これよりいそぎしたくし、十一時に食事をすまし、同三十分出門（兩人）、四（五）十分大磯発にて国府津に至り、皇太后陛下桃山御参拜のため京都へ行啓に付、御通過をここにて奉迎送し、十二時五十五分、又国府津発にて

大磯へかへる（一時十一分）、後入浴やら何やらにてごたごたし、方子とともにおやつを食し、同三時半、方子は出かけ、同四時一分大磯発にて帰京せり。夕又々一寸海岸へ出かけたり。

二十九日 月曜日 晴 午前七時ごろいつもの如く海岸散歩。朝食後は色々支度してしまひ、十一時五十分出門、一同帰京の途につく。午後十二時二十七分大磯発、同二時五十七分渋谷着、帰邸す。後、事なし。

大磯地区に於ける本土決戦期の遺構調査Ⅲ 市原 誠 (戦時中の大磯に関する調査市民協力者)

1. はじめに

第2次世界大戦末期における相模湾の対上陸防御に関する3回目の調査報告書となるが、昨年度に続き神奈川県中郡大磯町西小磯地区に掘削された本土決戦期の壕を中心に論じていきたい。

本稿では、調査が終了した西小磯5号壕～7号壕の3ヶ所のほか西小磯対戦車壕と王城山穹窿式加農砲陣地の考察を掲載していくものとする。壕の名称は、昨年度に続き単に調査した順番で地名に番号を付けて記録した。

今年度の調査期間についてであるが、2020年（令和2年）11月28日、12月12日、2021年1月16日、2月20日、3月6日、3月10日、4月3日の計7日間となっている。本来ならば、冬の真っ只中は積極的な調査シーズン到来であるが、昨年を引き続き今年度も新型コロナウイルス感染拡大に苛まれて中止や規模の縮小を余儀なくされてしまった。そのため、調査日数と比べて実測の成果が少なくなっている。

だが調査を進めていく過程で、付近に西小磯対戦車壕の存在が明らかになったり、王城山穹窿式加農砲陣地について判ってきたりしたことも多い。これらについては、実測の成果も去ることながら相模湾の対上陸防御を語る上では評価に値する事実の判明だ。

2. 西小磯5～7号壕の構築部隊と構築目的は？

故清水孝氏⁽¹⁾によると、終戦頃に千畳敷山(湘南平)付近一帯は、歩兵第402聯隊⁽²⁾主力の第3大隊が布陣していたという。この証言から判断して西小磯5～7号壕については、同隊構築と考えて良いだろう。

その構築目的については、3ヶ所の壕は平塚市万田方面へ抜ける街道(町道)沿いの東西両側に存在している。これは上陸した米軍が北に向かって侵攻するのを阻止する目的を帯びていることは明白だ。北進する米軍を斜め後方より狙い撃ちできる構造になっているようだ。いずれの壕も竣工しているとはいえない状態で放棄されており、判らないことも多いが、何らかの火力を伴って打撃力を有する兵器の準備を想定していたことは確実視する。もしかしたら、斬り込み隊の陣地としての使用も考えていた可能性もある。

掲載する3ヶ所の壕近辺には対戦車壕が準備されていたことが明らかとなったが、そこで北に向かって侵攻する米軍に渋滞を発生させたところを叩く心算だったのだろう。さらに北方には、高い打撃力を伴う東京湾要塞第2砲兵隊⁽³⁾の千畳敷山28cm榴弾砲陣地が存在している。この榴弾砲陣地を守る役割も

あったのかも知れない。

3. 西小磯対戦車壕

勤労奉仕をした中村晴夫氏(取材時：89歳)によると、大磯町西小磯1286-7番地付近の土手から川に向かって対戦車壕を掘ったとの話である。現在は、何の痕跡もない。

対戦車壕のイメージとしては、古代から近代に亘って建設された城には外敵の侵入を防ぐ堀を伴っているが、その堀を対戦車壕に置き換えると、理解しやすいだろう。戦車を格納する壕ではない。

米軍の侵攻が想定された場所には、多数の対戦車壕が掘られていたと考えられるが、西小磯地区でその場所を特定できたのは、ここだけであった。

4. 王城山穹窿式加農砲陣地

王城山に登る道は、トラックが通行できて海軍道路と呼ばれた。現在では、海軍道路という名称を知る者に会うことは非常に稀なことである。海軍道路の工事は、1942年(昭和17年)あるいは前年と思われ元々は千畳敷山防空砲台に関連する付属施設建設のためだった。

高橋誠一郎氏⁽⁴⁾の日記によると、1943年10月には、王城山山頂の平地に何らかの軍事施設が存在していたことが確認できる。その軍事施設とは、推測域だが探照灯であろう。このころの王城山は横須賀鎮守府が入山規制を敷いていたようだ。

だがその1年半後には、本土防衛の名の下、海軍道路を最大限活用し王城山山腹に、今度は陸軍を主体とした穹窿式加農砲陣地の構築が始まるのだった。陣地構築開始時期については、1945年5月ころから小田原に司令部を置く砲兵情報第5聯隊⁽⁵⁾が担任した。備砲については、海軍砲で間違いはないのだが、「大東亜戦争 相模湾火力配置図其の二」によると12cm加農砲が配備されたことになっているが、当時、王城山で勤労奉仕をした片野一雄氏⁽⁶⁾(取材時：87歳)によると戦艦長門から降ろした14cm加農砲だと話す。警防団がそう話していたのだという。

しかし、現在は穹窿式加農砲陣地が存在した痕跡や史料なども皆無に等しく、僅か76年前の出来事なのにそれが事実か否かも判断できなかった。唯一、『大磯の民俗(二)』に、僅かながら王城山へ通じる海軍道路と砲台の存在を示唆する文面が確認できた。

ところが、終戦直後に米軍が王城山を撮影した航空写真解析と、当時、布陣していた兵士の証言、前出の片野一雄氏の証言から、洞窟式砲座と軌道を伴う移動式の砲台が存在したことが判ってきた。

後述の考察を参照していただきたいが、王城山穹窿式加農砲陣地についての詳細を具体的に論じるのは、本稿が初めてとなるだろう。

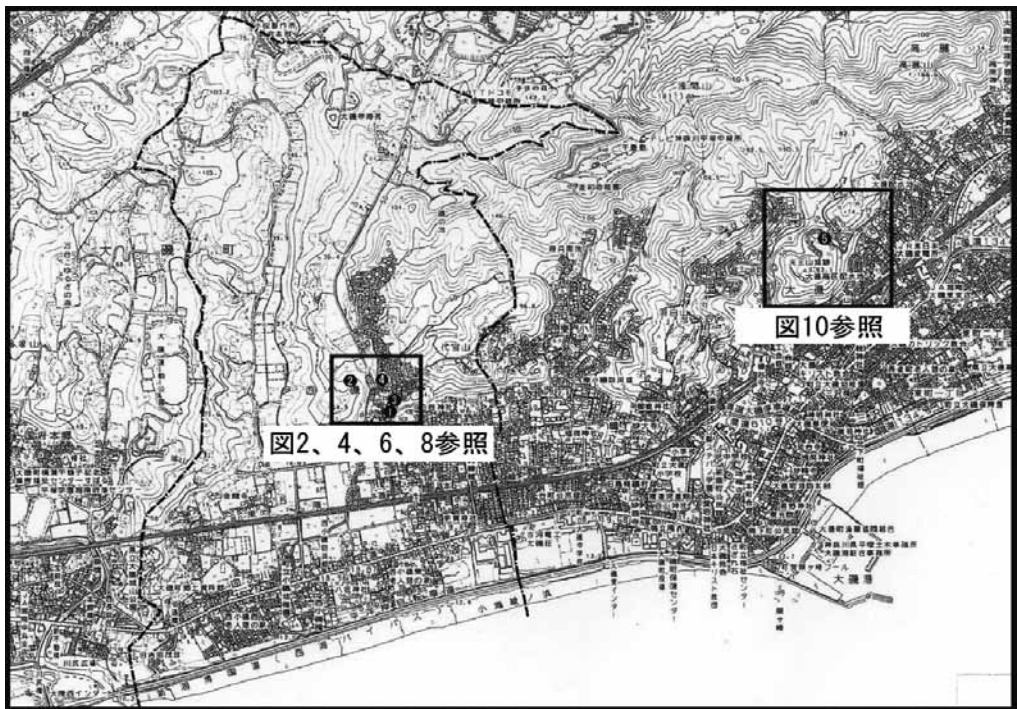


図1 位置確認マップ

①～③は、西小磯5号壕、6号壕、7号壕、④は西小磯対戦車壕、⑤は王城山穹窿式加農砲陣地の場所を表す。

①西小磯5号壕

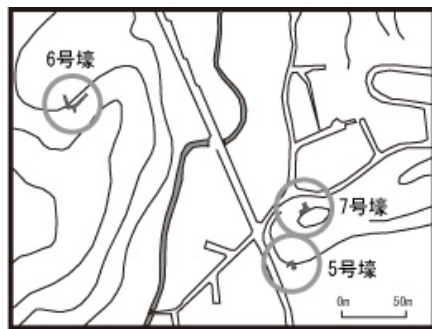


図2 西小磯5号壕位置

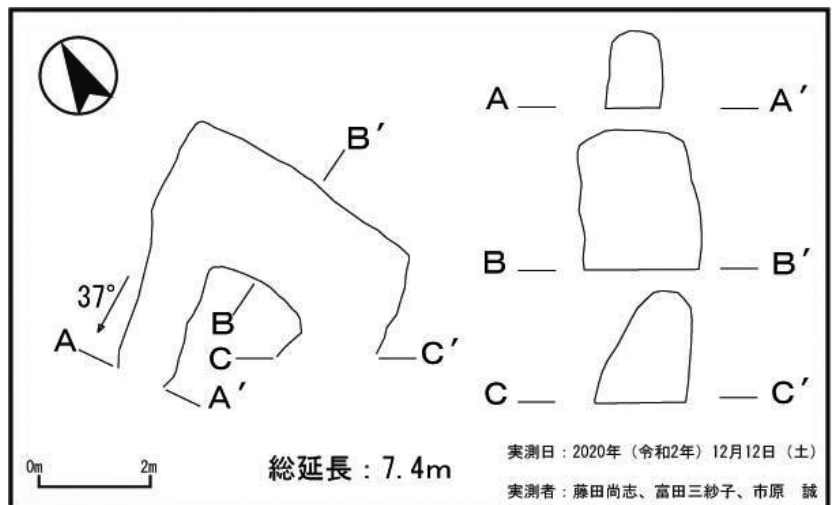


図3 西小磯5号壕実測図



写真1 西小磯5号壕西側入口



写真2 西小磯5号壕東側入口

2020年（令和2年）12月12日撮影

家主によると兵隊が掘削したと聞いているという。西側入口は、20年くらい前に崩落したといい狭くなっている。現在は、物置として活用しているが対弾層（岩盤）が薄いためか大雨だと雨漏りするとの話である。本壕西側入口のほんの少し西側には、構築を始めたばかりで放棄された坑道とは呼べない掘削痕跡あり。

本壕は、歩兵第402聯隊第3大隊で構築したと推定するが、この規模だと少人数で比較的短時間のうちに掘削できたであろう。強いて構築時期を推定するならば、1945年（昭和20年）8月ころから掘削して、終戦によって頓挫したのだろう。後述の西小磯7号壕とは、連結を予定していたのではないだろうか。

②西小磯6号壕

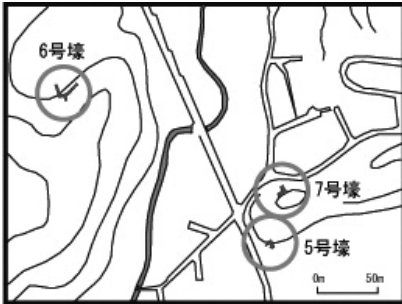


図4 西小磯6号壕位置

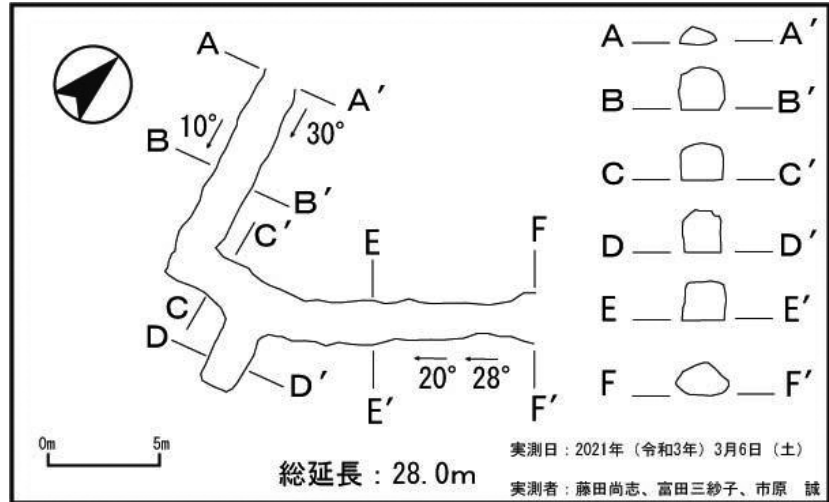


図5 西小磯6号壕実測図



写真3 西小磯6号壕北側入口



写真4 実測図E付近より東側を望む



写真5 西小磯6号壕東側入口

2021年（令和3年）3月6日撮影

本壕より東方約80m付近には、街道が通っており、来寇する米軍に対処することを想定していたのは間違いのない事実であろう。付近には対戦車壕の存在も確認でき、相模湾から上陸し南方からの侵攻が想定される米軍に対し斜め後方から対応できる場所に存在している。かつ、海側からは、その位置が特定できない巧妙な場所に掘削されており、戦術上、非常に理屈に合っている作りといえる。本壕のような布陣は、本土防衛の最前線各地で観察できる。

本壕は、完成状態とはいいい難く用途については判らない。強いて推測するならば、地下通路の幅が広めに掘削されているため、比較的小型の火力を伴う兵器を準備し、坑道内部での移動も考慮していたのだろう。

③西小磯 7号壕

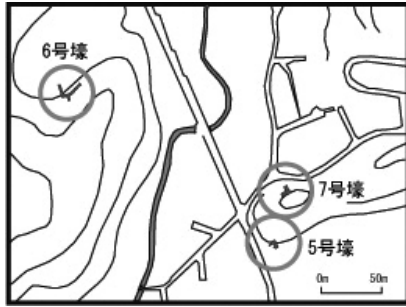


図6 西小磯 7号壕位置

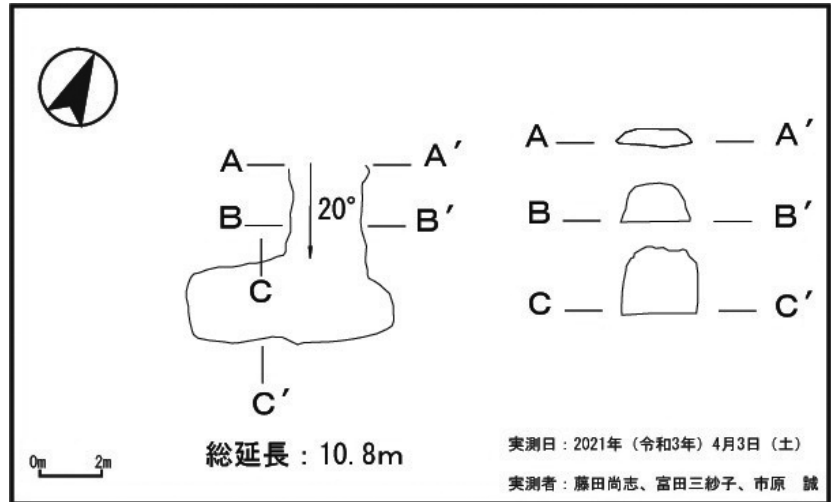


図7 西小磯 7号壕実測図



写真6 西小磯 7号壕入口



写真7 西小磯 7号壕実測図C付近

2021年(令和3年)4月3日撮影

本壕が存在した小高い丘は、網の目のように地下通路で連結し、丘全体を要塞化しようとしたのだろう。西小磯 5号壕とは連結することを想定していたと考えられる。

本壕の構築目的は、推測の域を出ないが西方約 50m に位置する街道に沿って侵攻する米軍に対処することと考えられる。いずれにしても、この方面の本土決戦準備は、正味 4 ヶ月程度しかなかったので、わずか 76 年前の出来事でありながら歴史の間に消え去り構築意図が不鮮明な箇所が多い。本壕の掘削期間は、作業人員数にもよるだろうが数日程度だったと思われる。

④西小磯対戦車壕



図8 西小磯対戦車壕活用のイメージ図

現平塚市万田に通じる街道は、侵攻を企てる米軍にとっては重要な要衝となったに違いない。対して迎え撃つ日本軍にとっても起伏のある地形のため、防御に適した要衝だった。この地より北約 1,000m 付近には、終戦ごろに、周辺地域で群を抜いて高い打撃力を備え持つ東京湾要塞第 2 砲兵隊所属の千疊敷山 28cm 榴弾砲陣地が稼働状態に近付いていた。このような条件が重なる地は、大激戦地になり得る。

血洗川に架かる橋は、米軍の来寇が近付いた時点で日本軍が破壊。血洗川が天然の防壁となり、米軍は渡河が不可能となる。やむなく米軍は、東寄りに進路を変え北侵を試みる。しかし、そこには日本軍が構築した対戦車壕が存在し、米軍は立往生を余儀なくされる。街道東西にある小高い丘に構築された日本軍陣地より、立往生した米軍に対し斜後方から側射、あるいは斬り込みがかけられ殲滅を企図し侵攻を阻止。損害を被った米軍は増援を送り込み消耗戦へと展開していく。この繰り返しが激戦へと発展していく構図である。

⑤ 王城山穹窿式加農砲陣地

王城山には、B12K の記載が見受けられる。B12K の「B」は海軍砲を表し、「K」は加農砲を表す。備砲については 12cm 加農砲となっているが、実際は横須賀に係留されていた戦艦長門から陸揚げした 14cm 副砲である可能性が高い。

なお、王城山の北東方向へと続く水道山の尾根付近の高所にも加農砲を備えた記載が認められる。ただし現在のところ、その痕跡や証言ともに有力な情報はない。現地へ出向いてみると射撃ポイントとしては、弾巢になるか否かは別として相模湾を一望でき絶好な場所といえる。

さらに北東方向に位置する尾根の高所である高麗山には、B14K の記載あり。高松宮日記の 1944 年（昭和 19 年）11 月 3 日付で「教材 14cm、12、7 を高麗山に移すを第 2 案とす。」との記載を見付ける。現地へ出向いてみると、それらしき「コの字型」で総延長 20m を少し超える程度の坑道だけが存在する。

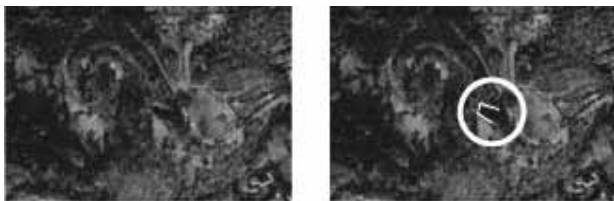


写真 8 1946 年（昭和 21 年）米軍撮影
～王城山の航空写真①～

写真右の○印のところが掩砲所へと通じる掘込み（切通し）と推測。写真左と対比していただきたい。撮影時間は、影から推測すると朝と思われる。



写真 9 1946 年（昭和 21 年）米軍撮影
～王城山の航空写真②～

○印の所には、明らかに掘込み（切通し）が確認できる。影のつき方から陽の高い時間帯の撮影と推測。

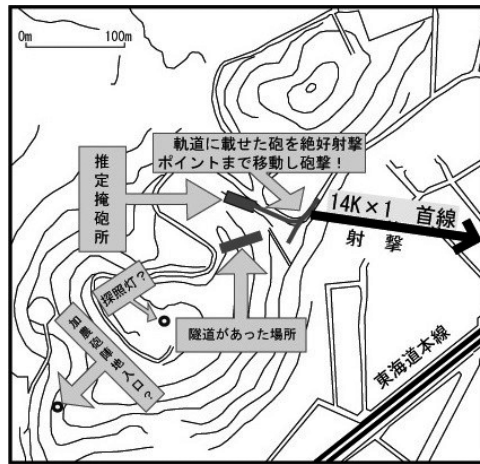


図 10 王城山穹窿式加農砲陣地 見取り図
推定により作図（隧道位置は畠山順次氏による）

前出の「相模湾火力配置図其の二」や当時、布陣していた砲兵情報第 5 聯隊所属兵士の証言から王城山穹窿式加農砲陣地は、今まで終戦ごろには何らかの形で存在していたと思われる。だが、その痕跡が乏しかったため、実態が不明のままであった。構築は、1945 年（昭和 20 年）5 月以降で間違いない。

しかし、勤労奉仕を経験した片野一雄氏の証言によると、その構造は、普段は加農砲を坑道内に格納し、有事の際は敷かれた軌道の上を好ポイントまで移動して射撃するものだったという。現地に赴いてみると、砲の移動は人力に頼らざるを得ないため軌道を敷くことができたのは起伏の少ない僅かなエリアだったと思われる。軌道の距離は、100m にも満たなかったと推測できる。当時、その構造が東海道本線からは良く見えたといい、客車の車窓には鎧戸を閉め規制がかかったという。ちなみに備砲は、先述したとおり、警防団が戦艦長門から外した副砲だと話していたと片野氏はいう。そして、山頂の探照灯は千畳敷山防空砲台と連動していたことだろう。

現在は掩砲所の痕跡が見当たらないが、造成によって消滅したためであろう。唯一、その痕跡らしき遺構が標高の同レベル上である王城山南西中腹に認められる。その構造は、羽白山（坂田山）穹窿式加農砲陣地と酷似している。もしかしたら、王城山は地下通路で貫通しているのかも知れない。

ちなみに大磯丘陵に詳しい畠山順次氏によると、1980 年（昭和 55 年）ころまで隧道があったとのことだが、王城山に加農砲陣地が存在したことは聞いたことはなかったという。

現地踏査については、2021 年（令和 3 年）2 月 20 日に藤野敬子氏、3 月 10 日に鈴木一男氏、4 月 3 日に藤田尚志氏、富田三紗子氏を伴い計 3 日間実施した。

主要参考文献

- ・大磯町『大磯町史民俗調査報告書五 大磯の民俗（二）』1998 年
- ・市原誠（『近代戦跡考古学 22（軍装操典 101 号）』2010 年）
- ・高橋誠一郎（『新編 虎が雨（慶應義塾大学出版会株式会社）』2011 年）
- ・市原誠（『平塚市博物館研究報告 自然と文化 34 号』2011 年）
- ・市原誠（『近代戦跡考古学 55（軍装操典 144 号）』2021 年）

注

(1) 1925 年（大正 14 年）7 月 4 日生。陸士 58 期。陸軍少尉。終戦時は、大磯海岸布陣。2012 年（平成 24 年）3 月 6 日逝去。享年 86 歳。筆者がもっとも、ご教示を頂いた方の 1 人である。生前の氏の強い

意向で、筆者に散骨するよういわれており、その遺言を受け入れた。

(2) 1945 年（昭和 20 年）5 月 2 日に甲府で編成された。

(3) 1945 年（昭和 20 年）4 月 15 日、第 53 軍隷下となる。隊本部は、大磯にあった。

(4) 1884 年（明治 17 年）生。文部大臣。1982 年（昭和 57 年）2 月 9 日逝去。

(5) 1940 年（昭和 15 年）7 月 15 日に習志野で編成。満洲に布陣していたが、1945 年（昭和 20 年）3 月内地転属発令。第 53 軍に編入され、相模湾正面の対上陸作戦準備に入る。同年 6 月、軍砲兵隊（第 11 砲兵司令部）に編入され、引き続き作戦準備中に終戦となった。

(6) 1931 年（昭和 6 年）8 月 20 日生。1998 年（平成 10 年）～2002 年（平成 14 年）まで大磯町長を務めた。

た(一三六―一三七頁)。

- (4) 2017-0309 書 223 に「従来領事ニ向ツテ為シタル上申、出願事項ニ関シ常々其実行ヲ見ズ、其得意ニ於テ誠意ノ認ム可カラザルモノアリトノ叱責ニ対シテ殆ンド弁明ノ余地ナク」とある。
- (5) 『官報』第九一號、一九一二年、四頁「朝鮮總督府告示第八十三號」及び朝鮮總督府土地改良部編『朝鮮の水利組合』一九二九年、七頁。
- (6) 遠山景澄編『京浜実業家名鑑』京浜実業新報社、一九〇七、二四六頁。
- (7) 「朝鮮特電・京釜鉄道会社員」『朝日新聞』一九〇四年五月一二日朝刊、三頁。
- (8) 「太平洋漁業株式会社株式募集」『朝日新聞』一九一七年七月五日朝刊、一頁。
- (9) 前掲注(2)『安東居留民團十年史』、二六頁。
- (10) 金井佐次(かない・すけじ)は、確認できる範囲でも、日本の軍政が開始した直後の一九〇五年からすでに安東に居留している(『朝日新聞』一九〇五年八月一三日朝刊、七頁)。また、のちに安東輸出貿易商組合長も務めている(金井佐次「朝鮮輸入豆粕検査に就て」『朝鮮農會報』第一卷第九号)。
- (11) 「安東豆粕製造所日興油房状況」(『通商彙纂』第三四号、一九一〇年)によると、日興油房は、資本金五万円の日清合資会社で、一九〇九年一二月に安東鴨緑江岸滿鉄附属地内に創設された。
- (12) JACAR (アジア歴史資料センター) RefB11091347300' 4) 安東領事館報告 (B-3-5-2-187_003) (外務省外交史料館)

七 嚴寒氷結ノ時季ハ毎年四五ヶ月間ニ於ケル小作人室内職業ノ見込アルヤ如何

八 安東鉄道沿線ニ於テ式百町許ノ開墾地ヲ得ヘキ見込ナキ哉如何、若有トスレハ其買入価格ハ如何

此ノ件此度久保田愛城氏ノ書簡ニテ分明セリ、右書中ニ「買取価」〔挿入〕「天地百式十円開」〔発〕〔削除〕「墾費一」〔三〕〔挿入〕「十円ヲ要ストアリ、一田地ハ日本ノ何町歩ニ当ルヤ

右取調之通答有之候ヘハ組合之相談取極栗塚・笠井兩人出張取調ニ可参答ニ候間、可成早々被為申越度存候、右申遣度、草々不尽

六月五日 綱

茂殿

尚以お静も去月廿日より羽根田之別荘静養中、「不食ニ付」〔挿入〕衰弱致居候ヘ共、幾分ハ宜様ニ御座候

【解説】

書簡の冒頭部分の内容から、竹内と吉田が開墾地購入について、繰り返し書簡のやり取りを行っていたことがわかる。ただし、書簡【四】【五】のあいだに、内容が不明な吉田の「本月二日書翰」と竹内の「別信」があるため、内容の解釈に確定できない部分が生じる。二通の書簡で登場する土地は、①金井佐次の所有地、②竹内が希望する官有の払下地ないし貸下地、③東尖山・興隆山の土地、④安東沿線の土地、である。このうち、①・②は前半の【四】の書簡に、③・④は【五】に登場する。【五】の書簡において、竹内は具体的に③の土地について土地の価格、所有権に対する証明書の有無、安東市街地からの距離や道路の状況、米の収穫見込量、小作人の雇い入れ等、具体的な開墾計画に関する調査を依頼しているが、これが、①の私有地のことなのか、あるいは吉田から別途②について具体的な

官有地の払下げなどの提案を受け、それに対して調査を依頼しているのかは文脈からは推測できない。

竹内は前述の調査を依頼した土地のほか、④の「安東沿線云々」の土地について、「八」の調査項目で具体的に開墾地二百町が取得可能か吉田に質問している。なお、「八」の注記から、④の土地は、吉田から提案されたものではなく、久保田愛城という人物から竹内にもたらされた情報だということがわかる。

一九一〇年の韓国併合により、朝鮮では、朝鮮総督府による土地調査事業が開始され、さらに水利組合事業によって、日本人の大規模土地所有が進展していた。竹内が関係していた「組合」の農業開拓事業も、こうした文脈のなかに位置付けられるといえる。さらに、満洲についても、一九〇五年の「満洲ニ関スル条約」により、前述したような満洲の鉄道附属地及び日本人居留地が急速に発展していた。書簡からは、朝鮮半島だけでなく、満洲にも農耕地を獲得し、事業を拡大しようとする竹内ら実業家の思惑がみとれる。

注

(1) 『年報』大磯町郷土資料館、二〇二〇年、三五―三九頁。

(2) 『安東居留民團十年史』安東居留民團法實施十週年記念會、一九一九年、四頁。中国の居留地及び居留民團については、渡辺千尋「居留民團法の制定過程と中国の日本人居留地―天津日本專管居留地を中心に―」(『史学雑誌』第一二三卷第三号、二〇一三)を参照。

(3) 『福澤桃介翁伝』福澤桃介翁伝記編纂所、一九三九年。伝記によると、福澤は国内だけでなく、朝鮮、中国の大陸経営にも関わりがあり、朝鮮電力会社の創立出願や、中国の水力開発にも興味を寄せてい

「水利組合」が同一のものかは不明であり、さらに竹内の組合内の立ち位置もまた明らかになっていない。続く文では、組合は朝鮮でさらに開墾地を購入しようとしていたが、吉田より安東の農地についての話を持ち掛けられたので、該当する土地の設計書を組合で確認し、朝鮮よりは有利な見込みだという結論になった、とある。ここで登場する「開墾地」とは、おそらく後述の金井佐次が所有する土地であると考えられる。竹内は吉田にこの「開墾地」を取り調べ、調査内容を報告するよう依頼している。吉田の返事によつては、笠井愛次郎と栗塚省吾が現地に出張し、取り調べるだろうとしている。笠井愛次郎と栗塚省吾については、いずれも京釜鉄道の関係者で、竹内ともつながりのある人物である。笠井愛次郎は工学博士で、京釜鉄道敷設の際に技師長を務めた⁶。また、栗塚省吾は司法官僚で、一九〇四年段階では京釜鉄道の社員となっていることが確認できる⁷。また、竹内と栗塚は太平洋漁業株式会社の発起人総代を務めており、共同事業者としての関係があつたことがうかがえる⁸。

続く追記では、「開墾地」を所有する金井佐次について、笠井が現地の有力者である太田秀次郎に面会し、人柄や経歴について確認をとつたことが記されている。太田は元警察官僚で、安東居留民団が設置された当初から居留民行政委員会の理事を務めるなど、現地の有力者であり、内情に通じていた⁹。書簡では、太田から、金井については「当時之失敗等之事」もあり、注意すべしという話になった、とある。ここで登場する金井佐次は、太田と同じく安東の居留地では古参の人物¹⁰で、安東市の郊外に日興油房という工場を経営していた。安東では大豆の生産が盛んで、大豆から抽出される油を加工する「油房」と呼ばれる工場が市域に多く存在した。なかでも金井の経営する日興油房は、一九一五年時点で、安東では最も多い生産量をほこつていた¹¹。

竹内が太田の話から金井に対し懸念を抱いたかどうかは不明だが、竹内は、金井が提案する開墾地売買の金額は、官有地の払下げや貸下げと比較して、随分高価であるとの印象を抱いていた。このため、組合は金井から提案を受けている土地とは別に、払下地や貸下地で二百町の水田の購入を希望する旨を伝えている。当時安東の官有地は安東官有財産管理会が管理しており、領事の監督下にあつた。ひとまずは、吉田からの返事をまつて決定したいというところだろうか。次の【五】の書簡には、この農地購入の件がさらに詳しく書かれている。

【五】吉田茂宛 竹内綱書簡 (一九一六)年六月五日付

本月二日書翰到達披見候処、先月廿二日当「力」方より之御問合ニ付、別信ニテ一応相答至候へ共、頭書末文ニ安東沿線云々と申越候へ共、別信之頭書ニ対する返書ハ到達不致候ニ付、取調早速返信有之度存候、頭書者左之通

- 一 農耕地買入価格并諸入費明細書
- 二 東尖山興隆山土地所有権ニ対スル政府之許可証アリヤ、若有リトスレハ其証書写
- 三 安東東市街ヨリ東尖山興隆両地エ之里程及人馬往来道路ノ現状如何
- 四 計画書ニ依レハ第一年東尖山水田八十町歩収穫数式千八百石トアリ、初一年度ニ於テ八十町歩ノ開墾ヲナシ一反歩ヨリ三石五斗ノ収穫見込確實ナルヤ如何
- 五 計画書ニ依レハ興隆山水田三十町歩トアリ其外四百町歩ニハ水田トナシ得ヘキ土地ハ無之哉、若有トスレハ其歩数ハ何程ナルヤ
- 六 小作人食料一名六十円トアリ、其歩数何程ナルヤ
- 六〔ママ〕 小作人食料一名六十円トアリ、右ニテ一年ノ食料不足ナキ哉

は、竹内の書簡の「別紙」にあたるものと考えられ、安東瓦斯会社紛議の詳細が記載されている。資料によると、安東瓦斯会社は設立以降、経営者間で意見の相違があり、旧役員であった福澤桃介らが辞任し、新たに高木得三が事業を継承しようとしている状況だった。さらに、会社内での紛議に加え、会社の事業が計画通り進展していないとして領事から再三注意を受けていた⁴。安東瓦斯会社側としては、業績不良となっている会社を解散するか、経営権を高木得三に継承するかのいずれかを領事の判断にゆだねており、高木が経営権を継承する場合は、役員変更と本店移転の登記を受理願いたい、との依頼内容が記されている。つまり、今回の件で、福澤が吉田に「内意被申越度候」と伺いを立てた内容は、安東瓦斯会社の解散あるいは継続の選択についてであったことがここから判明する。竹内は吉田に対し、福澤に対して遠慮せず、適当な処置を決定するよう自身の意見を添えている。

日露戦争後の一九一〇年代、安東をはじめとする満洲の鉄道附属地において、日本は現地の近代都市化とそのためインフラ整備を進めていた。これは、日系資本の満洲進出にも欠かせない要件だった。こうしたインフラ整備の必要性から、安東瓦斯社は、領事から強く事業の進展を催促されていたものと考えられる。安東瓦斯会社が、その後どのような経緯をたどったのかは不明だが、安東におけるガス事業は、のちに南満洲瓦斯会社に引き継がれることとなった。

【四】吉田茂宛 竹内綱書簡 (一九一六)年五月二二日付

陳者去ル十日之手紙相達致披見致候、右開墾地之義ニ付希望者ハ実ハ先年朝鮮釜山近傍之金海と申処ニ於而組合ニ而水田を買入候処、「□」〔抹消〕是迄水害甚敷ニ依リ水利組合を設け築堤工事を起シ昨年末成功致し当年よ

り相応之收穫見込相立候ニ付、猶朝鮮ニ於而開墾地を取入度聞合申之処ニ其許ヨリ開墾地之申越有之候ニ付御設計書を組合ニ為見候処朝鮮よりハ有利之見込ニ付、此方を取調申度申事ニ相成候ニ付、猶右別紙頭書之通御聞合候度申来候間右頭書之件ニ付取調之上ニ報有之度存候、右返報ニ依リ笠井愛次郎・栗塚省吾「出張」〔抹消〕取調取極之為メ其地ニ出張之筈ニ有之候間、早々取調之報知有之度存候、右申遣度、草々不備

五月廿二日 綱

茂殿

尚以太田秀次郎ニ笠井面会、金井佐次之人撰ニ付承候処、当時失敗等之事并ニ此ニ懸念も有之殊注意も有之候由、尤も取調被申越度存候、開墾地ハ官有地之払下力又ハ貸シ下ニ可有之、然ル時金井農耕地ハ他ニ所有地と買入候モノナル力無、左テハ弍万余円ハ随分高価之様被相考候也、実ハ金井ノ分よりハ他ノ新シキ払下地又ハ貸下地等ニ而水田ヲ弍百町内外を取入度、組合之希望ニ有之候間、猶篤与取調有之度存候

【解説】

【四】及び後述の【五】では、安東における農地売買について、朝鮮での水田開発事業を企図していた事業者に対し、吉田が安東の開墾地を斡旋し、それに対して竹内が詳細を吉田に問い合わせている。

書簡によると、当初、開墾地購入希望者である「組合」は、朝鮮釜山近郊の金海という地域ですでに水田開発を行っていた。文中では、「組合」は金海に水田を買入入れたが、水害が頻繁に起こるため、水利組合を立ち上げ、築堤工事が「昨年末成功」したとある。『朝鮮の水利組合』によると、金海では水利組合が一九一二年十一月に設置され、翌年には水利工事に着手し、一九一五年一〇月に竣工したとあるので、ここから書簡が書かれた年代は一九一六年だと推定できる。しかし、文中にでてくる「組合」と

【資料紹介】吉田茂宛竹内綱書簡（続）

久保庭 萌（当館学芸員）

一 書簡の概要

当館では、吉田茂関連資料を多数所蔵しており、なかには吉田茂宛ないし吉田作成の書簡も含まれている。このうち、吉田家旧蔵資料に吉田の実父である竹内綱が息子の吉田にあてた書簡が五通あり、前回の「【資料紹介】吉田茂宛竹内綱書簡」にて、竹内の書簡を二通紹介した。今回は残りの三通を紹介する。

今回は、日本の対中外交に関する竹内と吉田それぞれの意見や活動を垣間見ることのできる資料であった。一方、今回紹介する資料からは、大陸経営に関わる竹内綱の実業家としての側面と、中国における日本人の経済活動を支援する、吉田の領事としての活動とを読み取ることができ、竹内は、日本国内において様々な企業の設立・経営に携わっていたが、一八九〇年代以降は京釜鉄道敷設を嚆矢として、朝鮮半島及び中国への経済進出にも目を向けていた。

書簡が書かれた時期、吉田茂は安東領事を務めていた（一九一二年～一九一六年）。安東は現在の遼寧省丹東市にあたる。日露戦争時に日本陸軍が第一軍の兵站基地として軍政を敷き、南満洲鉄道安奉線の安東駅が置かれ、鉄道附属地とともに日本人居留地が形成された場所である。一九〇六年の軍政廃止後、日本人居留地は外務省の管轄となり、吉田が領事を務めた一九一〇年代においては、居留地の監督保護権は領事が有していた。また、居留地経営については、一九〇五年に制定された居留民団法により、行政機関として居留民団役所が設置された²⁾。

二 書簡の積文と解説

【一】吉田茂宛 竹内綱書簡（一九一四）年三月二二日付

福沢ハ日本瓦斯会社之社長ニ有之候

先月一五日之手紙落手春暖之候相揃平安之趣抔喜之至ニ候、爰許全家無事省念可有之候、陳ハ馬龍潭氏之画幅贈与ニ付絶句ニ而も謝意を表し度候処、先月始より同時ニ会社紛議之調停之依頼ニより頗ル取紛、未タ不相片付候様之都合ニ而遅延致候、近日相果候様可致候間其旨相断度候様被致度存候、扱福沢桃助より安東県瓦斯会社之件ニ付別紙之通依頼し来り、何トか解決ニ相成候様領事之内意承度との事御座候間、不得已申遣候間如何様ニ而も内意被申越度候、福沢ニ対し決し而遠慮ニ及不申ニ付適當之処決被致度存候、右申遣度 草々不備

三月十二日 竹内綱

吉田茂殿

【解説】

【一】の書簡の後半では、安東瓦斯会社の経営者である福澤桃介から安東瓦斯会社について、竹内を通じて、吉田に仲裁を依頼する内容が記されている。ここで登場する福澤桃介とは、実業家として日本各地の電気会社の設立に携わり、「電力王」の異名をとった人物である。日本国内における電力事業に尽力した福澤だが、一時は、日本瓦斯会社を設立するなどガス事業へも進出していた。安東瓦斯会社も福澤が関連した事業のひとつである³⁾。安東瓦斯会社は、一九二二年、福澤と千葉胤義、石原正太郎らによって設立された。

安東瓦斯会社については、同じ資料群に二点関連資料がある。ひとつは杉原佐一郎宛川村讓吉書簡であり、もうひとつは「要旨」と表題のついた、安東瓦斯会社本社移転の顛末について書かれた内容のメモである。これら

年 報

令和 2 年度

◇ 令和 3 年 8 月 31 日発行

◇ 編集・発行

大磯町郷土資料館

〒 255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660